<u>目 次</u>

I妻	医田小学校	の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
	1 校章	
	2 学校の	
		数の推移と職員数
	4 地理的 5 児童の	
	5 児童の	7年在
Π	インター	ナショナルセーフスクールの取組経緯 ・・・・・・・7
	1 背景	
	2 セー	フコミュニティとインターナショナルセーフスクールとのつながり
	3 進行料	犬況
ш	十六~下	20 12 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
Ш	本仪の初	況と問題点抽出、方向性・目標設定 ・・・・・・・・9
IV	8つの均	標に基づいた取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・14
1 4	O 7071H	(大)(二条)(一)(大)(1年)
	指標一1	協働を基盤に、安全向上に取り組む運営基盤の整備
	指標—2	で
	11100 -	地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策
	指標一3	両性、全年齢、環境、状況をカバーする
		長期的かつ継続的なプログラム
	指標一4	ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム
	指標一5	入手可能な根拠に基づくプログラム
	指標一6	外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラム
	指標一7	学校政策、プログラム及びそのプロセスが
		変化したことによる効果の評価
	指標一8	国内・国際的なネットワークへの継続的な参加
v	現在の問	題点
•	ンロロエマン [14]	nam 12
VI	長期展望	••••••

Ⅰ 妻田小学校の概要

本校は、神奈川県厚木市のほぼ中ほどに位置し、1976年(昭和51年)に開校した。 現在、厚木市には合計23校の小学校があり、児童数は厚木市の中でも中規模の学校である。

1 校章



この校章は、かつてこの地の水路等に育成していた"田字草"の一葉と"妻田"の文字とを組み合わせたもので、次の内容を表現する。

基盤にとり上げた"田字草"は、この地の過去からの継承を示し、小葉の間の空隙は、中津、小鮎の二川を、葉の全面は地域を、そして中央の文字は、ここに集い学ぶ健やかな子どもたちを表している。

また、田字草の4つの小葉は本校の教育目標"和の精神"とそれより生じる3つの価値、真、善、美に仮託している。

2 学校の外観

グラウンド側からの外観





3 児童数と職員数

2017年5月1日現在の学級数は、通常学級15、特別支援学級が3で、計18学級である。本校の児童数は、以下の3年間は減少している。各学年の学級数は、2ないし3クラスとなっている。ここ数年は減少傾向が続いたが、2018年は20名増加した。

妻田小学校の児童数

※各年5月1日現在

学年(大) 年	2015年	2016年	2017年
1 学年	74	74	68 (2 クラス)
2 学年	82	73	76 (3 クラス)
3 学年	86	79	72 (2 クラス)
4 学年	77	85	81 (3 クラス)
5 学年	82	79	86 (3 クラス)
6 学年	101	82	79 (2 クラス)
合 計	502	472	462

妻田小学校の職員数

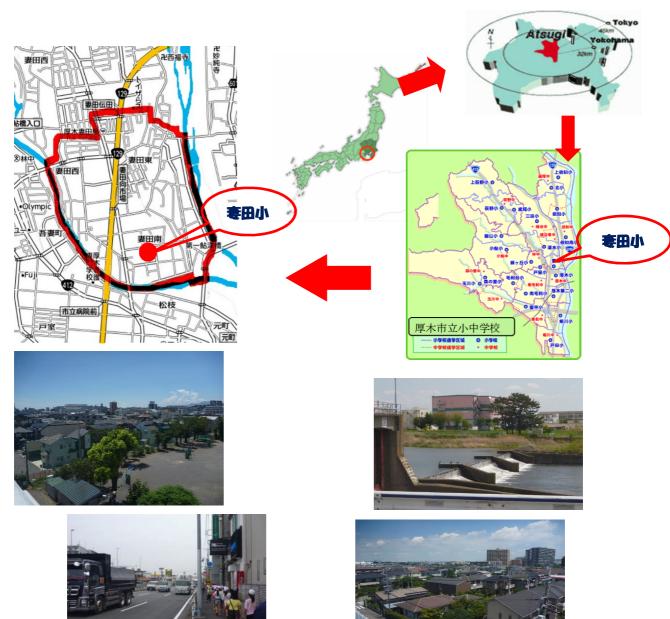
※2017年5月1日現在

校長	1人	教頭	1人	総括教諭	4 人
教諭	21 人	養護教諭	1人	事務	1人

4 本校の地理的な特徴と厚木市で想定される災害

本校は厚木市の中ほどに位置し、東西に川が流れている。国道 129 号線の幹線道路が 学区内を通っていて交通量がとても多く、登下校時の交通安全に対する不安を抱えてい る地域である。児童は徒歩で通学している。学区内は住宅地が多く道路が入り組んでお り、人通りが少ない場所も多くあり、不審者による被害も心配されている。

妻田小学校を卒業すると、児童のほとんどは睦合東中学校に進学する。ISS 認証校である睦合東中学校には、同じく認証校である清水小学校の児童も進学している。

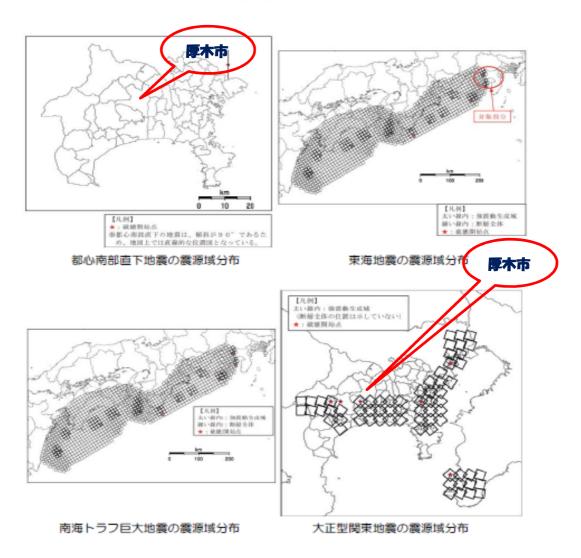


【厚木市で想定される災害について】

大きく日本全体を見たときにも、またこれまでの歴史を振り返ってみても、厚木市内では様々な災害が想定される。万一の災害に備えた学校としての対応が必要である。

① 地震

<想定地震の震源域の分布図>



(神奈川県地震被害想定調査報告書(平成27年3月)による)

② 自然災害

「厚木市地域防災計画(2016年3月)より」

[風水害][雪害][林野火災][火山災害]

- ・伊勢湾台風相当の水害、厚木市に影響を及ぼした昭和54年台風20号や平成3年台風18号を想定した水害、及び平成12年東海水害相当の災害が発生した場合を想定。
- ・厚木市に影響を及ぼした平成26年2月雪害相当の災害が発生した場合を想定。
- ・厚木市内の林野で大規模火災が発生した場合を想定。
- ・富士山や箱根火山等の厚木市西方諸火山の噴火とし、富士山については、過去に

発生した最大規模の噴火(「富士山ハザードマップ検討委員会」)を対象とし、厚木 市が影響想定範囲に含まれる降灰、小さな噴石、降灰後土石流及び火山ガス等が発 生した場合を想定。

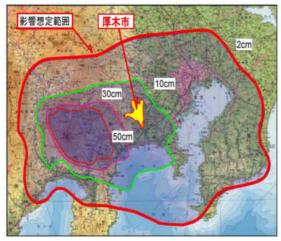
③ 人的災害

[航空災害][鉄道災害][道路災害][危険物災害][大規模火事災害][その他の災害]

- ・厚木基地航空機(米軍機・自衛隊機)又は民間航空機が市内及び周辺山中に墜落 し大規模災害が発生した場合を想定。
- ・厚木市内の鉄道における列車脱線事故等の大規模災害が発生した場合を想定。
- ・厚木市内の道路における大規模自動車事故や道路構造物の大規模損壊等による 災害を想定。
- ・厚木市内の危険物貯蔵・取扱施設等における火災・爆発等の発生、及び不発弾除 去を想定。
- 市街地で大規模延焼火災が発生した場合を想定。
- ・放射性物質取扱事業所等における事故及び放射性物質を搭載し、東名高速道路を 通行する車両事故により災害が発生した場合や、厚木市外の原子力施設において 発生する事故により厚木市内に放射性物質が飛来又は流入する災害、放射性物質 による汚染が広範囲に広がる災害を想定。
- ・厚木市内の1000 m以上の床面積を有する地下街等において、火災・ガス爆発及び浸水事故等の災害が発生した場合を想定。

降灰可能性マップ

小さな噴石の影響想定範囲





5 児童の生活

児童は、4月に始まり3月に終わる1年間の中で約200日間妻田小学校に通学している。年間は3学期制で、各学期の間には「夏季(約42日)、冬季(約14日)、春季(約10日)」の長期休業がある。主な行事は左下の表のようになっている。

学 期	月	行 事	季節
1 学期	4月	入学式	春
	5月	遠足	
	6月	児童主催フェスティバル	
		(2018年は10月実施)	
	7月	水泳学習	夏
夏季休業	7月21	日から8月31日まで	
2学期	9月	運動会	秋
		(2018年は、6月実施)	
	10 月	修学旅行(6年) 遠足	
	11 月	PTA フェスティバル	
	12 月	(2018年は、6月実施)	冬
冬季休業	12月2	5日から1月7日	
3 学期	1月	書初め大会	冬
	3月	卒業式	
学年末休業	3月26	日から4月4日	

朝休み	8:00~ 8:20
予 鈴	8:20
朝活動	8:25~ 8:50
1 校時	8:50~ 9:35
2 校時	9:40~10:25
業間休み	10:25~10:40
3校時	10:45~11:30
4校時	11:35~12:20
給 食	12:20~13:05
清 掃	13:05~13:25
昼休み	13:25~13:50
5 校時	13:55~14:40
6 校時	14:45~15:30
帰りの会	15:30~15:40
下 校	14:50 (5 校時)
	15:40 (6 校時)

ここでは表記していないが、授業参観が各学期に1回、

家庭訪問・教育相談という保護者と学級担任との面談が年間2回あり、学校は、保護者が学校の様子を知る機会をさまざま設定している。

児童の登下校は、全員が徒歩で行っている。登校は通学班による集団登校が多く、学校に近い一部の地区の児童は自由登校となっている。下校は同学年中心の一斉下校である。

児童の一日は、右上の表のようになっている。児童が自由に活動する休み時間は黄色で示したように3回あり、外で遊ぶ児童が多い。水曜日は清掃活動を行わず、その時間も加え通常より20分長い休み時間(ロング昼休み)となる。その日は、クラス遊びが行われることが多く、「ドッジボール」や「おに遊び(鬼役の子が、鬼以外の子を走って追いかけてつかまえる遊び)」が好まれている。

児童は、国語、社会(3年生以上)、算数、理科(3年生以上)、図工、音楽、家庭科(5年生以上)、体育、生活(2年生以下)、外国語活動(2018年より3年生以上)、総合的な学習の時間(3年生以上)、道徳の時間等を、基本的には担任から学んでいる。この他に、学年や学校での行事などを経験する学校生活を送っている。

放課後や休日は、友達と遊んだり、習い事へ行ったりしている児童がいる。遊びは学校の校庭や、学区内の公園に集合することが多い。その際の移動手段として、多くの児童が自転車を使用している。遊びは、ボール遊びや、携帯・スマートフォン・ゲーム機等を使ったゲームをしていることが多い。

Ⅱ インターナショナルセーフスクールの取組経緯

1 背景

本校が I S S の取組に至った背景は、5 点ある。

1点目は、中学校区内にISS認証校の清水小学校、睦合東中学校があり、妻田小学校の児童の9割は睦合東中学校へ進学しているので、小中継続して9年間ISS活動ができるという点。

2点目は、以前から妻田小・清水小の児童会、睦合東中の生徒会で、小中合同ミーティングを実施しており、3校合同で挨拶やいじめ防止に向けた取組について、話し合いや情報交換をしていた点。

3点目は、本校のある睦合南地区は厚木市内でも先進的にセーフコミュニティ(SC) としてのまちづくりに取り組んでおり、学校と地域の協働した取組が可能となる環境 にあるという点。

4点目は、これまでも、すこやかネットワーク会議(※1)や青少年健全育成会(※2)などの会議において、児童の生活や問題行動等の情報交換が積極的に行われていたという点。

5点目は、保護者も ISS に取り組んでいきたいという声が増えてきた点。

以上の5点から、学校、保護者と地域住民の3者による安心・安全な学校環境づくりが協働で行える環境にあると考え、本校はISS認証に向けて取り組むこととした。

- ※1 すこやかネットワーク会議 (2006年7月設立) とは、「しみずっ子すこやかネットワーク会議」が前身母体 の組織である。2009年4月に厚木市のセーフコミュニティモデル地区に指定された後、2014年に妻田小学校、 睦合東中学校が加わり、現在に至っている。
- ※2 青少年健全育成会とは、地域の関係団体や関係機関の方々で組織され、地域、家庭、学校をつなぐパイプ役として、青少年の健全育成のために活動している組織である。

2 セーフコミュニティとインターナショナルセーフスクールとのつながり(P.15)



3 進行状況

これまでの本校のISS活動の流れは、以下のとおりである。

年・月・日	校内	市内県内	国内	国外	取 組
0016 10 10					校長がインターナショナルセーフスクール認証取得を目指す
2016.10.12					意思を正式に表明
2016.11.17			•		豊島区仰高小・池袋本町小現地審査を視察(教頭、ISS 委員)
2016.11.18		•			厚木市立清水小学校第3回認証式を視察(校長,教頭,ISS 委員)
2016.11.18					JISC 講師来校(白石先生) 研修会実施
2016.12.1					3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかネ
2010.12.1					ットワーク会議」を開催(教職員)
2016.12. 9					さいたま市立慈恩寺小学校現地審査を視察(教頭)
2016.12.19		*			自治会、公民館主催パトロールに参加(教職員)5-(4)-2
2017.1.16~17					松原市立松原第三中·布忍小·中央小事前指導視察(ISS 委員)
2017.1.20					さいたま市立慈恩寺小学校 ISS 認証式を視察(校長)
2017.2. 9					豊島区仰高小・池袋本町小 ISS 認証式を視察(ISS 委員)
2017.3.26		*			自治会、公民館主催パトロールに参加(教職員)5-(4)-2
2017.3.27					JISC 講師(白石先生)による第1回ワークショップを妻田小
2017.5.27					で実施(地域・保護者・児童・教職員対象)
2017.5. 1		*			3校(睦合東中、清水小、妻田小、)合同引き渡し訓練実施
2017.0. 1		^			4-(3)-1
2017.6.16					JISC 講師(白石先生・今井先生)と妻田小学校インターナシ
2017.0.10					ョナルセーフスクール関係の打ち合わせを実施(ISS 委員)
2017.6.19					3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかネ
2011.0.10					ットワーク会議」を開催(教職員)
2017.7.15		*			自治会、公民館主催パトロールに参加(教職員)5-(4)-2
2017.7.28	•				食物アレルギー対応研修を実施
2017.8. 9		•			本校現地指導のための打ち合わせ(白石先生・今井先生)
2017.8.29	*				防犯・不審者対応研修を実施 3-(4)-4
2017.10.31					ISS 現地指導(グレメ バーバー先生・白石先生)
2017.10.01					睦合東中 ISS 現地指導を視察(校長、ISS 委員)
2017.11.24					3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかネ
2017.11.21					ットワーク会議」を開催(教職員)
2017.12.14			•		豊島区立池袋第一小現地審査を視察(ISS 委員)
2017.12.16		*			自治会、公民館主催パトロールに参加(教職員)5-(4)-2
2018. 1.18	•				JISC 講師(白石先生)による認証支援
2018.2.6			•		豊島区立池袋第一小 ISS 認証式を視察(ISS 委員)

[※] 上記以外に、校内 ISS 委員会を毎月行っている。

^{※ ★}は、指標3~5で詳しい説明があるプログラム。

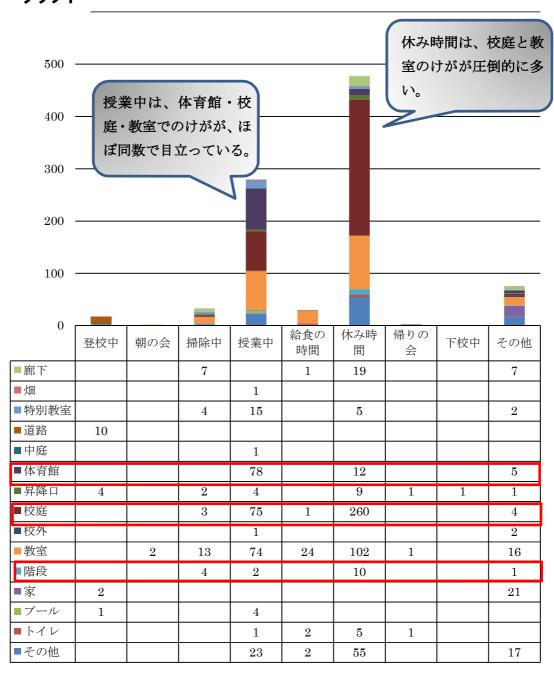
Ⅲ 本校の安全に関する状況と、問題点抽出、方向性・目標設定

1 問題点の抽出

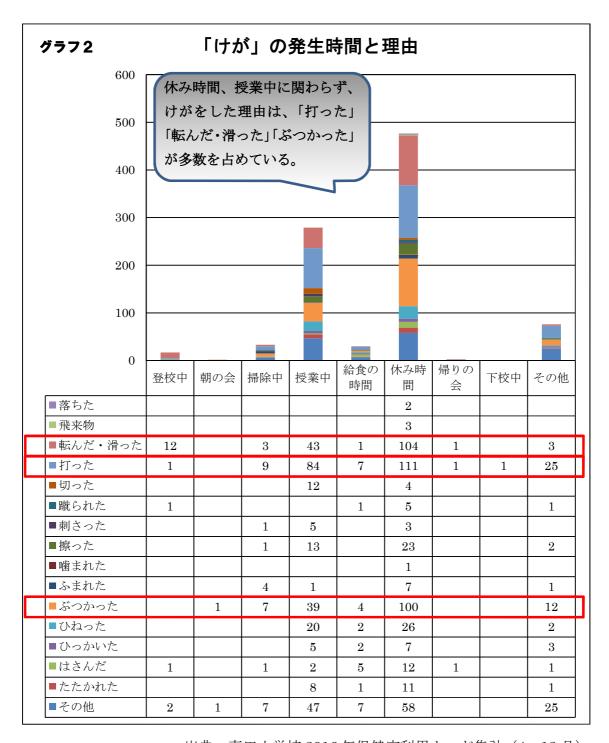
安心・安全な学校づくりを進めていく上で、本校の安全に関する状況把握をするために、児童、地域住民、保護者、教職員によるワークショップを開催した(2017.3.27)。 ワークショップでは、主観的なものと、客観的なもの(2016年4月~12月までの保健室利用データ等)をもとに、話し合いを行った。

体のけが

「けが」の発生時間と場所グラフ1



出典:妻田小学校 2016 年保健室利用カード集計(4~12月)

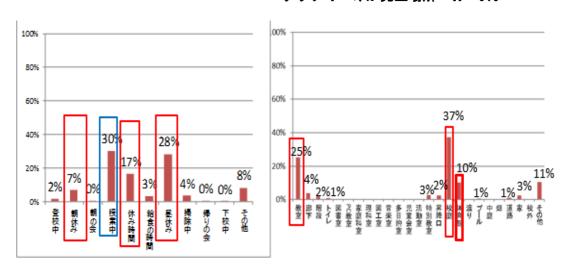


出典:妻田小学校 2016 年保健室利用カード集計(4~12月)

グラフ1・2の「その他」については、場所・理由ともに「覚えていない」というものが多くなっている。

グラフ3 けが発生時間帯 n=919

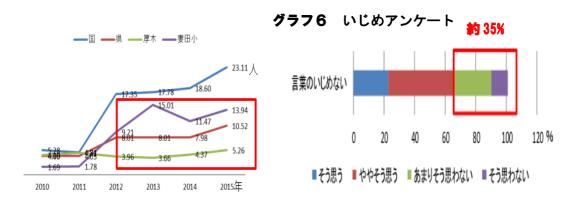
グラフ4 けが発生場所 n = 919



出典:妻田小学校2016年保健室利用力一片集計(4~12月)

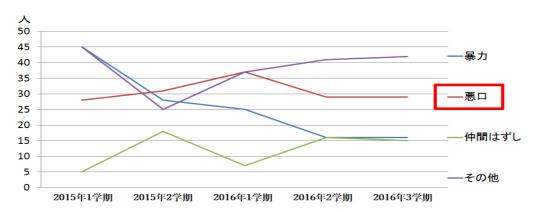
心のけが

グラフ5 1000 人あたりいじめ認知人数



出典: 厚木市教育委員会 出典: 妻田小安心・安全アンケート(2017年2月実施)

グラフ7 いじめアンケート分類別件数

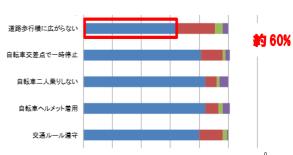


出典: 妻田小いじめアンケート(2015年、2016年実施)

交通事故によるけが

グラフ9 交通ルールアンケート グラフ8 100人あたり交通事故人数

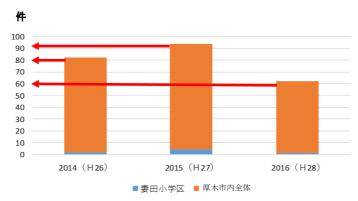




出典:厚木市教育委員会

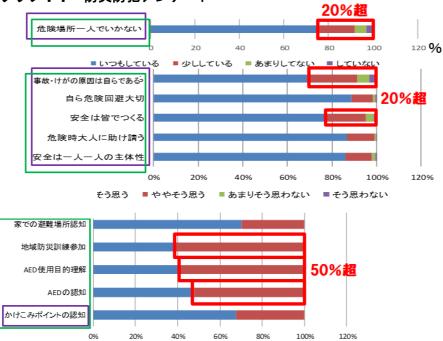
出典: 妻田小安心・安全アンケート(2017年2月実施)

グラフ10 不審者発生件数



出典:厚木市教育委員会

グラフ11 防災防犯アンケート



出典:妻田小安心・安全アンケート(2017年2月実施)

■はい ■いいえ

上記データ(グラフ1~11)や、ワークショップ(2017年3月実施)をもとに、本校の問題点を4つに分類した。

【問題点1】 校内の「けが」が多い

主観	客観	問題点
・小さな「けが」が多い	·休み時間の「けが」が多い(52%) グラフ1・2・3	※4
・転倒の際、手が出ず顔に「けが」を	・授業中の「けが」が多い(30%) グラフ1・2・3	24
する	·校庭での「けが」が多い(37%) グラフ1・2・4	3
・不注意による「けが」が多い	・教室・体育館での「けが」が多い(35%)グラフ1・2・4	1
・ルール違反による「けが」が多い		

【問題点2】 いじめの認知件数が、厚木市や神奈川県に比べて多い

主観	客観	問題点
・悪口がある	・いじめの認知件数が市や県より高いグラフ5	12
・物隠しがある	・ことばによるいじめに問題意識をもっている グラフ6	10
	・ことばによるコミュニケーション不足が影響グラフ6・7	100

※「いじめ」の定義(文部科学省)

「いじめ」とは、児童・生徒に対して、同じ学校に在籍する児童・生徒が心理的又は物理的な影響を与える行為 (インターネットを通じて行われるものも含む)であって、心身の苦痛を感じているものをいう。 起こった場所は、学校の内外を問わない。

【問題点3】 交通安全に対する子どもの意識と現状に違いがある

主観	客観	問題点
・交通量が多い	・事故が起きる割合が市全体よりやや高いグラフ8	7
・歩行時、道路に広がったり、確認不	・交通安全に対する意識が低い(歩行)グラフ9	6
足だったりしている	・子どもの意識と現状の違い グラフ9	⑤
・集団で自転車走行してしまう		

主観	客観	問題点
・用水路に入る	・毎年不審者が発生している グラフ10	9
・不審者が出る	・地域防災訓練参加者や、AED使用目的理解者など	8
・避難訓練に真剣に取り組んでいな	は、半数以下 グラフ11	
い児童がいる		

【問題点4】 毎年不審者が発生し、地域防災訓練参加者は半数以下

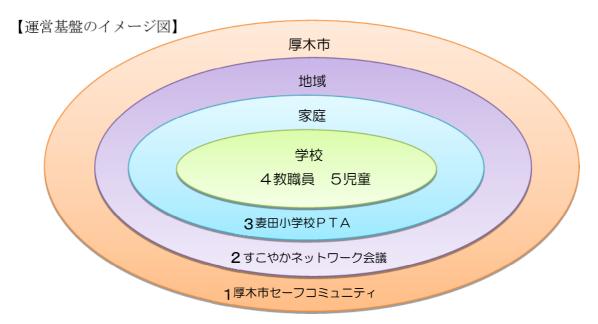
※ ①~⑫の番号は、P.41 の表の問題点の番号と一致している。

Ⅳ 8つの指標に基づいた取組

本校の安全を向上し、前頁までの安全診断によって明らかになった問題点を解決するため、ISSの8指標に沿って取組を推進している。

4つの問題点に対し目標を掲げ、様々な取組を展開している。取組を進めていく中で、継続して行うプログラム、拡充が必要なプログラム、新たに取り組む必要のあるプログラムが分かり、安心・安全の向上のため学校、保護者、地域住民やすこやかネットワーク会議のメンバーが相互に連携し、各プログラムを推進している。

指標一1 協働を基盤に、安全向上に取り組む運営基盤の整備



1 厚木市セーフコミュニティ(SC) ※P.7参照

厚木市は、2010年11月に国内3番目となるセーフコミュニティ(SC)の世界認証を取得し、地域や行政など関係機関が協働して、地域で発生している事故や「けが」などを予防するための取組を行い、誰もが安心して安全で健康に暮らせるまちづくりを進めている。

市内の自治会などを SC 推進地区に指定し、犯罪、交通事故、自転車事故などの防止や不審者の警戒、危険箇所のチェックを行うなどの課題への対策を講じている。また、厚木市 SC の「子どもの安全対策委員会」において、清水小学校が ISS の取組を発信して、けがの予防や交通事故、不審者などの課題への対策を講じている。

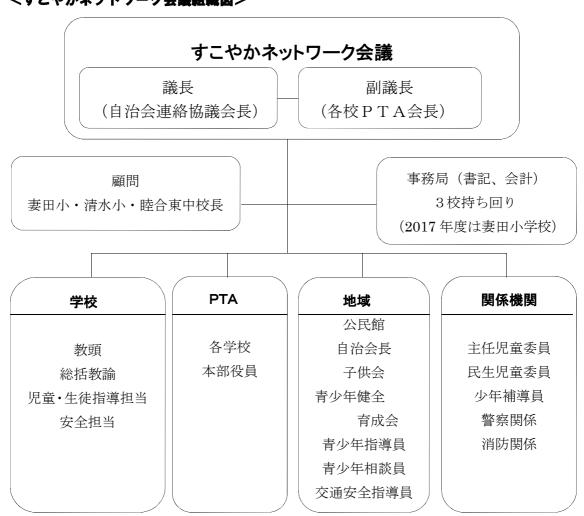
2 すこやかネットワーク会議

この会議は、妻田小学校、清水小学校、睦合東中学校に在籍する児童・生徒の生活 安全、交通安全及び非行防止等を推進するため、PTA、学校、自治会等とのネット ワーク化を図り、「すこやかネットワーク会議」を組織し、地域ぐるみで安心・安全 なまちづくりに取り組んでいる。

また、この会議は、2014 年から厚木市の SC 推進地区の指定を受け、犯罪防止や 交通事故防止、不審者対策など子どもの安全対策に取り組んでいる。

すこやかネットワーク会議を通して、各自治会と連携し、保護者とともに地域行事に参加できるよう呼びかけている。参加することで、お互いに顔の分かる関係を築けるようになってきた。

<すこやかネットワーク会議組織図>



3 賽田小学校PTA

PTA本部役員が中心となり、全家庭への呼びかけによる ISS 活動の推進を行っている。また、PTA校外生活委員会が主体となり、保護者と児童とが協働して通学路安全点検を行い、改善が必要な箇所等については、行政への働きかけを行っている。さらに、PTAが主体となり、本校が安心・安全な教育環境を整備するために、地域と学校が連携する活動の一つとして、「すこやかネットワーク会議」の運営を行っている。

PTAが他の団体と連携しながら地域ぐるみで活動することにより、学校を取り巻く環境の整備や児童を地域で育てることが可能となっている。

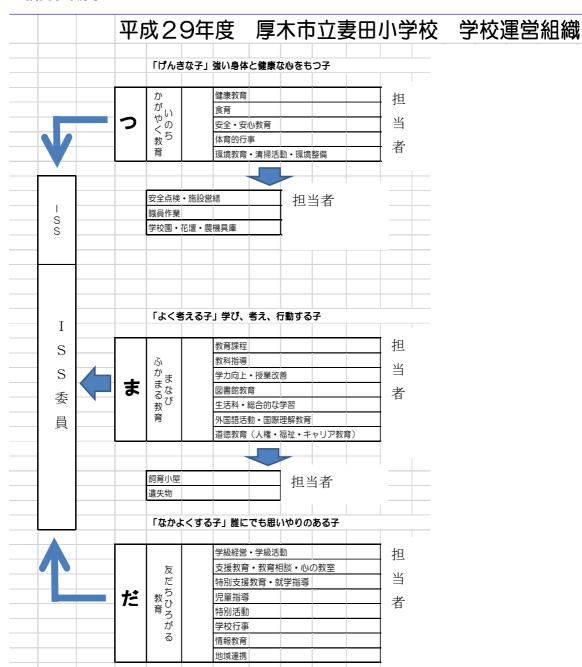
また、地域の方と連携し、「見守り隊」として登下校を見守っている。登下校の時間帯にオレンジベストを着用して、児童に挨拶や交通安全を呼びかけている。

4 妻田小学校 校内組織 <教職員>

校内では、これまでの学校運営組織の中に、安心・安全な教育環境づくりの視点を 取り入れて活動している。

- (1) いのちかがやく教育
 - ①登下校時の安全指導
 - ②自転車の安全な利用などの交通事故防止
 - ③災害の備えと安全な行動 など
- (2) まなびふかまる教育
 - ①教科及び各領域における安全学習の実施
 - ②教科指導における安全指導及び安全管理のマニュアル作成 など
- (3) ともだちひろがる教育
 - ① 良好な人間関係づくりのためのスキルアップ
 - ② いじめ・暴力予防のための活動
 - ③ 携帯電話やスマートフォンによるトラブルの防止
 - ④ 児童会活動による安心・安全な環境づくり など

<校内組織図>



5 妻田小学校 校内組織 <児童会>

児童会活動のねらいは、学校生活の充実・向上を図るため、学校生活に関する諸 問題を解決する活動及び学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を自発的・自 治的に行うことによって、自主性と社会性を養い、個性の伸長を図ることとしてい る。

<児童会組織図>

ISSに関する取組一覧 <全体統括> 委員会活 ① 運営委員会・・・代表委員会の運営、**雨の日パトロール**(5-(1)-3) 動 <環境整備> 児童会活 (全⑫委員会に、 ② 花と緑の委員会・・・季節の花などを植える、緑の羽根募金 ③ 環境委員会・・・もくもく清掃チェック、清掃用具点検 ④ 飼育委員会・・・うさぎ、かめ、グッピーなどの飼育 <発信> 五. ⑤ 放送委員会・・・安全に過ごすための放送(休み時間・下校時) 六年全児童が分か K (5-(1)-6, 3-(4)-7)パ ワ ⑥ 図書委員会・・・ I S S 関連本のコーナー作り ⑦ 集会委員会・・・発表しよう集会、各委員会の発表の司会・運営 4 ⑧ 掲示新聞委員会・・・ISS新聞発行、掲示 んなでつ れて <けが減少> つなごう 年 ⑨ 健康委員会・・・けが調べ・月別の振り返り(5-(1)-1) 間 所 ⑩ 生活委員会・・・右側歩行調べ(5-(1)-2)、校内安全マップ作成 属 (5-(1)-4)心 \mathcal{O} IJ ボ <丈夫な体づくり> ン ① 給食委員会・・・月ごとの給食目標掲示、バランスのよい食事 学校大好き妻 ② スポーツ委員会・・・**体育倉庫の整理整頓(3-(1)-8)**、体育用具の 代 1表委員 貸し出し、管理、体力づくり週間(5-(1)-5) 会 田 各委員会の代表、学級の代表、必要に応じて会員の参加 0 子 集会活 児童朝会 動 1年生を迎える会 全校児童集会(でんじまつり) 6年生を送る会

指標-2 セーフスクール推進組織と「セーフコミュニティ」に基づいた地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策

地域住民及び保護者、教職員で組織する「すこやかネットワーク会議」が中心となり、地域との積極的な情報共有を図り、学校を基軸とした取組を展開している。

なお、「すこやかネットワーク会議」は、厚木市の SC 活動にも積極的に参画しており、2009年に「SC モデル地区」の指定を受け、また 2014年6月から妻田地区が加わり、様々な SC 活動を通し、厚木市の SC と情報共有を図っている。

1 学校教育目標

豊かな心をもち、 たくましく生きる 妻田っ子の育成

児童のめあて

げんきな子 よく考える子 なかよくする子



2 安心・安全な教育環境づくり

-ISS 認証をめざす基本方針- 自ら考え行動できる児童の育成

- ○児童が主役となり、教職員、保護者、地域の方が力を合わせて、安心・安全な学校 をみんなでつくっていくことに大きな意義がある。
- ○「けが」を少なくするためには、また、事故や災害から身を守るためにはどんな活動をすればよいのかを考え行動し、危険を回避する能力を身につけることをめざす。
- ○いじめや暴力等で、相手のからだや心を傷つけることなく、毎日が、気持ちよく安心して、学習や生活に取り組める学校にしていくことをめざす。

3 児童会のめあて

2017 年度の児童会スローガンは、「フレンドパワー みんなでつなごう 心のリボン 学校大好き 妻田っ子」である。2016 年度までの児童会は、主に、自分たちにとってより過ごしやすい環境づくりを目指した活動を行い、概ね目標を達成できた。2017 年度は、その環境をもとに取り組み、仲間と協力しながら、新たにより良い取組を展開し、児童会活動を活発にしていくために、このめあてを設定した。

また、2017 年度に、ISS キャラクター、キャッチコピー、歌の歌詞、宣言を全児 童対象に募集し、投票や代表委員会の話し合いにより決定した。

<ISS キャラクター>

<キャッチコピー> 安心・安全が 心をつなぐ 幸せバトンで 笑顔の花を 咲かせよう



< ISSのうた>

1(※1) 進んでいこう 前に歩いて みえるよみんなの 心がけ 楽しい学校

(※2) 明るい毎日 幸せバトンで 未来へ歩もう

安心・安全 いじめなくそう みんなでつくろう 大きな心 みんなでつなごう 心のリボン 手と手とりあって

2 (※1) (※2)

悲しい顔をみかけたら やさしく 話しかけてみよう) みんなちがって みんな良い 勇気と笑顔で

(※1) 明るい毎日 みんなが笑顔の 妻田小学校

<妻田っ子宣言>え:笑顔であいさつが:学校大好きお:大きな心 (低学年)は:話そうみんなと じ:人権守る け:謙虚な心 る:ルールを守る (高学年)

4 厚木市教育振興基本計画による「未来を担う人づくりのために」(2013年)

【基本目標】

- ①自ら学び、鍛え、未来を切り拓くためのたくましい力の育成 (拓く力)
- ②自他を大切にし、互いを認めあえる豊かな心の育成 (感じる力)
- ③社会の一員として共に支えあい、よりよい社会を築いていく力の育成 (築く力)

【基本方針】(ISSと強く結びつくものを抜粋)

- ・安心・安全で、課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。
- ・教育の原点である家庭教育を支援するとともに、地域全体で子どもを守り、 育てる機運を高め、地域社会の教育力の向上に努めます。



5 セーフコミュニティ(SC)との関連

本校は、厚木市のSC活動、厚木市教育委員会とともに、ISS活動に取り組んでいる。(P.7 図参照)

厚木市SCには、妻田小学校がISS認証取得を表明して以来、本校における関係者打ち合わせ、職員向け研修会、児童、教職員、PTA、地域対象ワークショップ等に参加し、協力していただいている。

2016年11月以降は、日本セーフコミュニティ推進機構代表理事の白石陽子氏をは じめ、認証センターの先生方に時折来校していただき、研修会、各取組の進行状況等 についてアドバイスをいただいている。

厚木市の中でも本校のある睦合南地区は、先進的にSCとしてのまちづくりに取り組んでおり、学校と地域が協働して安心・安全な教育環境づくりを行っている。

6 安心・安全セーフコミュニティ推進地区

厚木市では、2011 年から、S C 認証都市として、市内において「安心・安全S C 推進地区」を指定し、地域の安心・安全活動を効果的に推進している。その推進地区 として、睦合東中学校、清水小学校、妻田小学校 3 校と睦合南地区の関係機関等で組織される「すこやかネットワーク会議」が指定を受けている。(再掲)

<推進地区の活動事例> ※「安心・安全セーフコミュニティ推進地区指定要領より」抜粋

- (1) 安心・安全パトロールの実施 防犯、交通安全、環境美化などを目的
- (2) 安心・安全啓発看板の設置 防犯、交通安全などを目的
- (3) 危険箇所マップの作成 防犯ポイント、交通危険箇所などの把握・情報共有
- (4) 安心・安全だよりの発行、回覧 各種情報の共有
- (5) 安心・安全教室、研修会の開催 防犯、セーフコミュニティ、交通安全などの研修
- (6) アンケート調査の実施 犯罪、交通事故、けがなどの現状把握
- (7) ワークショップ (グループ討議) の開催 犯罪、交通事故、けがなどの現状把握、対策の検討

指標―3~5に関するプログラムの全体像

本校では下記に示すように、学校の児童、教職員をはじめとするすべての年齢層・性別、環境、状況の安全に取り組んでいる。

妻小								対象	食者						
34	. 11 .			児童					教職員			PTA	・保護者	地域·	来校者
		3-1-1	3-1-2	3-1-3	3-1-4	3-1-5	3-1-1	3-1-2	3-1-4	3-1-5	3-1-6	3-1-2	3-4-1	3-1-2	3-4-1
		3-1-6	3-1-7	3-1-8	3-2-1	3-2-2	3-1-8	3-2-4	3-3-6	3-4-1	3-4-2	3-4-2	3-4-4	3-4-4	
		3-2-3	3-2-4	3-3-6	3-3-7	3-4-1	3-4-4								
	校	3-4-2	3-4-3	3-4-4											
	舎	4-1-1	4-1-2	4-2-1	4-2-2	4-3-1	4-3-1	4-3-2				4-3-1	4-3-2	4-3-1	
	内	4-3-2													
学		5-1-1	5-1-2	5-1-3	5-1-4	5-1-6	5-1-1	5-1-2	5-1-4	5-1-8	5-1-9	5-1-1	5-1-2	5-1-1	5-1-2
校		5-1-7	5-1-8	5-1-9	5-2-1	5-2-2	5-4-1					5-1-4	5-1-9	5-1-4	5-1-9
		5-3-1	5-4-1												
		3-1-1	3-1-6	3-1-7	3-1-8	3-2-4	3-1-1	3-1-6	3-1-8	3-2-4					
	校	4-1-3	4-2-1	4-2-2	4-3-1	4-3-2	4-3-1	4-3-2				4-3-1	4-3-2	4-3-1	
	舎														
	外	5-1-1	5-1-4	5-1-5	5-1-7	5-1-10	5-1-1	5-1-4	5-1-10	5-4-1		5-1-1	5-1-4	5-1-1	5-1-4
		5-4-1										5-1-10	5-4-1	5-1-10	5-4-1
	通	3-3-1	3-3-2	3-3-5	3-3-6	3-4-7						3-3-6			
	学														
	路	5-3-2	5-3-3												
学校		3-3-3	3-3-4	3-3-5	3-3-7	3-4-1	3-3-4	3-4-1	3-4-2	3-4-5		3-3-3	3-3-4	3-3-4	3-4-1
外	学	3-4-2	3-4-5	3-4-6								3-4-1	3-4-2		
	区											3-4-5			
	域														
		5-1-7	5-2-1	5-3-1	5-3-4	5-4-2	5-3-4					5-3-4	5-4-2	5-4-2	

※ 指標 3指標 4指標 5

指標一3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続 的なプログラム

3-(1)-1	継続	取組回	数・頻度	毎月			
取組名	校内外安全点	検				現日までに	
目的	校内外の危険	環境の改	女善。		32L4	M. Wilder.	
概要			・校庭などの点検 業者に依頼する。		、結果を教団	頁に報告し、	
実施者	教職員 主な対象 全校児童 教職員						
ISS による変化	提出期日を明確にし、修繕箇所の把握を厳密に行う体制になっている。						
今後の予定	今後も継続して	ていく。					

1 校内外の「けが」の削減 (3-(1)-8まで)

3-(1)-3	継続	取組回数・頻度	通年	
取組名	窓からの転落	防止金具の設置		
目的	窓からの転落防止。			The state of the s
				19

3-(1)-2	新規	取組回数 • 頻度	毎月	
取組名	毎月の「保領	関		保健・安全目標
3-(1)-4	夢 基に対する	関心 羽縄回数・	頻度 年1回	
取鍋名	アクションス	リードを使った緊 続	急時対応研修	
	自分が第一発	見者になった場合	合にあわてず	
展鯓	せン健康ずる	た保護自標を掲点を接上を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		
	る。			全校児童、教職員
実施者				グルでである。教職員
ISS I 表変化				、DVD視聴、ロールプ
今後の予定	自標を見香地	なが表縁続起て現	<u> 条巻分のシミュ</u>	レーションを行う。
実施者	教職員	主な	対象	全校児童、教職員
ISS による変化	_			
今後の予定	想定を変えて	毎年実施していく	0	

概要	2階以上でベランダかる器具を設置する。ま 毎月の校内安全点検で を行っている。	3よそ10cm	~ 1 5 c m窓	まが開くように設定し、
実施者	教職員	主な	対象	全校児童
ISS による変化	チェック体制を強化し なっている。	、各安全点検(の担当も細か	くチェックするように
今後の予定	校内安全点検等で設置 は、担当で設置を行い		, , _ , ,	確認されたりした場合
3-(1)-5	新規 取組	回数・頻度	通年	
3- 敗組名	華機安全計画の 駆艦	回数・頻度	通年	Colored SpS-site
取組名	各教科等全おいて安	金の開成掲事	項を一覧表	
目的	教科、(福暮に偽主で)		・生活他)に	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
展鳆	年度初めに、各学年やに一覧にして載せる。		に関わる内容	を洗し 4 mAndreacher parties produced par
実施者	教職員	主な	対象	全校
ISS による変化	_			
今後の予定	今後も継続していく。			

	学校安全計画に基づいて	、教科における安全指導	掌を視覚化できるよう
概要	に、マニュアルを作成す	る。特別教室の壁面に、	安全についての注意を
	掲示し、授業で活用して	いく。また、掲示できな	いものについては、フ
3-(1)-7	継続シュカードとし取り	- 換集 で指導度され	灰。
聖魁名	体育の授業中の約束徹	^底 主な対象	
	体育の時間のけが防止。	,	
ISS による変化	_		THE PARTY OF THE P
今後の予定	今後も継続していく。		
Jan m.	体育では、準備体操を必	なず行う、体育着をズボン	/の中に入れる、つめ
概要	を切ってくるなど、基本	的な約束を徹底する。	
実施者	教職員	主な対象	全校児童
	年度当初に約束を徹底す	トるよう、職員会議で確	認する体制になってい
ISS による変化	る。		
今後の予定	今後も継続していく。		

3-(2)-1 継続	売 取組回数・頻度	年2回(6月、12月)
------------	------------------	-------------

3-(1)-8	継続	取組回	回数・頻度	委員会活動時	
取組名	体育倉庫の整理	理整頓			and the state of t
目的	体育時に使う道具の出し入れをスムーズに行える事や安全に運ぶことが出来る事を目指す。				
概要	る事で物の出し	入れが	しやすくなり	、物を安全に運	と行う。整理整頓をす 選ぶことが出来る。ま 受せるようにする事が
実施者	スポーツ委員会	<u>></u>	主な	対象	全校児童 教職員
ISS による変化	スポーツ委員が成して掲示して		の位置を管理	する体制になっ	っており、パネルを作
今後の予定	今後も継続して	ていく。			

2 いじめ行為の減少(3-(2)-4まで)

取組名 3-(2)-3	小中合同ミーティング 継続 小中の連携をはかり、児	組回数・頻度 年1回 登重生徒が共通認識のもと	
目的	取り組む内容を考え、第 指す。	と心・安全な学校作りを目	
概要	合う。2017 年度テー・各校で取り組んでいけり組む。	を作り、情報交換し、同じま ーマ:①「あいさつ」を活動 ②「いじめ」を防止する でそうな事を具体的に出し合 間取り組んできたことの紹介	後にするための活動 るための活動 い、1年間かけて取
実施者	運営委員会児童	主な対象	全校児童
ISS による変化	頻度は変わらないが、内 なっている。	1容は ISS に関連する項目に	こついての話し合いと
今後の予定	毎年実施していく。		

3-(2)-2	継続	取組回数・頻度	年3回
取組名	いじめアンケート (6月11	月2月)	
目的	いじめの早期発見。		
概要	アンケートは、1・2年は絵	そんれた平仮名のもの、	3年以上はいじめ
1995	を「悪口」や「無視」、「仲間]はずれ」などという文章	面を入れて実施。
実施者	教職員	主な対象	全校児童
	2015 年までは1・2学期の	み実施だったが、2016	年から毎学期実施に
ISS による変化	なっている。さらに2017年からは、前調査と比較し、いじめが継続して		
	いるかどうかの確認を行うようになっている。		
今後の予定	毎学期実施し、早期発見につ	っなげる。 2018 年からは	、家庭や地域で困っ
プ後のアル	たことも聞く項目を設ける予	定。	

取組名	スマートフォン・携帯電話安	全教室の実施	
3-(3) 百的	便利なスマートフォン携帯電 継続 **デラブルや情報流失などの危 る。		
概要	児童のスマートフォン・携帯電って友達にラインで送ったといい相手とつながる危険性はどう 全に使用するためにどうしたら	、う経験のある児童もレ ういうことかなど、便和	いる。顔が見えな 川な通信機器を安
実施者	携帯電話会社 教職員	主な対象	4・5・6年児 童
ISS による変化	数年前までは5・6年対象だっている。	ったが、ここ数年は4年	年以上を対象にし
今後の予定	今後も継続していく。		

3-(2)-4	継続	取組回	数・頻度	通年		
取組名	あいさつ運動					
目的	あいさつをすることで、気持ちのよい生活を送 る。					
概要	連続3日間、クラ	連続3日間、クラス単位で登校後約10分間実施。				
実施者	全校児童 教職員 主な対象 全校児童 教职				教職員	
ISS による変化	体制、頻度、内容は特に変化なし。					
今後の予定	今後も継続してい	<.	今後も継続していく。			

3 交通安全に対する意識の向上 (3-(3)-7まで)

3-以組名 3-的 目的	集団登校、集団下校 取締 安全確保と共助のために を作り、集団登校・下校	·	
概要	登校時には、多くの児童だっている。また、下校時にとに下校班を作り、毎日だらかを1・2年生の学術気をつけさせながら並んで	こは、1年生と2年生の その班で下校をしている 級担任が確認し、確認が	児童は各学年で地域ご 。下校班がそろったか 出来次第、交通安全に
実施者	教職員	主な対象	全校児童
ISS による変化	体制、頻度、内容は特に変	 変化なし。	
今後の予定	今後も継続していく。		

3-(3)-2	継続	取組[回数・頻度	毎日	
取組名	見守り隊(セーフテ	ィベス	・着用)		
目的	登下校中の交通事故防止。				
概要	朝と下校時に、地域の方が横断歩道や交差点等に立ち、歩行中の児童の安全を見守っている。				
実施者	地域 保護者 主な対象 全校児童				全校児童
ISS による変化	地域の方が、交差点等に立つ分担をしており、立たない日がない体制になっている。				
今後の予定	今後も継続していく。	·			

			③児童朝会		
取組名	ヘルメット着用率向上				
目的	交通事故にあった際、頭を守る。				
概要	 ① ヘルメット調査 ② ヘルメット購入用助成用紙配付 ③ 児童による呼びかけ 				
実施者	 ① 教職員 ② 教職員 PTA ③ 生活委員会児童 				
ISS による変化	自転車だけでなく、他の乗り物でもヘルメット着用を呼びかけている。				
今後の予定	今後も継続していく。				

3-(3)-4	継続	取組回数・頻度		1年間		
取組名	地域安全マップづくり					
目的		災に関	安全、防関する意			
概要	地域の成。	地域の探検を通して、児童自らが危険箇所などを見つけ、地図を作 成。				
実施者	3年生	児童	竜 主な対象		全校児童 教職員 保護者 地域	
ISS による変化	毎年、3年生の総合的な学習の時間で、地域学習を行う体制になっている。					
今後の予定	今後も継続していく。					

3-(3)-5	継続 取組回数・頻度 年間						
取組名	かけこみポイントの	かけこみポイントの登録件数増					
目的	児童が危険なときに	児童が危険なときにすぐに助けを求め避難する。					
概要	保護者や地域にプリ 件数増加をめざす。	pht28##72h					
実施者	教職員 主な対象				全校児童		
ISS による変化	地域の様々な会議でも登録を呼びかけ、随時募集する体制となっている。						
今後の予定	今後も継続していく。						

3-(3)-7	継続	取組回数・頻度	年間	
取組名	チリリンつま	だ	(6) 3 ti (80)	
目的	交通ルールを	知る。	M. A. W. E.	
概要	神奈川県警か	ら出される交通安全に関	gacening .	
拟女	クイズを掲示			

3-(3)-6	継続	取組回数・頻度		年1回		
取組名	登校班連絡係会議 (保護者)、登校班長会議 (児童)					
目的	安全に登校できる。	こ登校できるようにするため。				
概要	登校班の運営。	登校班の運営。				
実施者	教職員 保護者		主な対象	 象	保護者	全校児童
ISS による変化	毎年登校班の班長 (になっている。	〔児童)	や連絡係(保護者	が の仕事	内容を引	き継ぐ体制
今後の予定	今後も継続していく	0				

実施者	教職員	主な対象	全校児童			
ISS による変化	クイズを学級全体に見せる方法から、一人1枚プリントを配付する方法 に変更する。					
今後の予定	今後も継続していく。					

4 防災・防犯に対する意識の向上 (3-(4)-7まで)

3-(4)-1	新規	取組	回数•頻度	年1回	1
取組名	災害から身を守るだ				
目的	実際に地震が起こった時や火事に遭遇した時 に、自分で自分の身を守ることができるよう にする。				
概要	年1回 PTA スマイルフェスティバルを開催する時、市役所から起震車を借りて実際の関東大震災や東日本大震災の震度を体験する。また、火事の時の煙体験もしている。				
実施者	PTA 市役所 消防 主な対象 教職員 主な対象			全校児童 保護者 教職員 地域	
ISS による変化					
今後の予定	今後も継続していく。				

3-(4)-4					
取組名 取組名 取組名	継続 取組回数・頻度 毎年7月 不審者対応教職員研修会 用水路、川(厚木市遊泳禁止)の危険認識 不審者が校内に侵入した際の対処方法を				
郵 的	用水路や川での危険を知らせ、事故にあわな 学ぶ。 いようにする。				
概要	複割 「犯分・製師・児童等」を決めて実践し、各グライで撮り、検証する。 遊ぶことにどんな危険があるかを知らせ、水の事故の未然防止に役立て				
 	教職員リントを持ち帰らせ、 季客対象 びかける校星寛、養職人業が始まる直前の終業式にも全校児童の前で話し、用保護者川地域ら来校者と				
ISS による変化	全体広・転送 の設定を変えて実施している。				
今賽施 春定	全校児童・保護者 教職員、継続していく。 主な対象 教職員				
ISS による変化	体制や頻度は変化なし。				
今後の予定	今後も継続していく。				

3-(4)-3	継続	取組回数・場	i度 通空	F	
取組名	窓・ドアの赤シール				
目的	児童に危険な場所の周知。				
概要	特に危険な位置にある窓やドアには、赤いシールを貼る。このシールが貼ってある窓やドアは子ども自身が開けてはいけないルールとなっている。1年生や年度初めには担任が児童に指導し、シールについて確認を行う。				
実施者	教職員	主	な対象	全校児童	
ISS による変化	避難訓練後の事前や事後指導等で、シールの位置を教える体制になっている。				
今後の予定	校内安全点検等で危 やしていく。	険性が報告され	次第、担当	当で検討を行い、シールを増	

3-(4)-6	継続	取組回数・頻度	年2回
---------	----	---------	-----

3-(4)-5	継続	耳	双組回数・頻度	不	審者発生時		
取組名	5 校連絡網の	活用			亦中建聯会用產級網 第2年2月20日 第2年2月20日		
目的	近隣小中学校で、不審者情報を共有する。						
概要	携し、この地 絡網を流すこ	区で不審	F者が発生したときに っている。この連絡が	、各 あっ	を、睦合中学校の5校で連校へFAXを流し、電話連た場合、メール配信や、いよう未然防止に努める。		
実施者	児童・教職員		主な対象		全校児童 保護者 教職員		
ISS による変化	ISSによる変化 5 校で不審者の情報共有だけでなく、指導方法の共有もするよっている。						
今後の予定	今後も継続していく。						

取組名	防犯ブザー調査		前川山道		
目的		不審者被害にあわない(未然防止)の観点と、あった際に助けを求める一つの手段。			
概要	厚木市から配られたブ 際に使用したことがあ	ザー、それ以外のブザー、実 るかを調査。			
実施者	教職員	主な対象	全校児童		
ISS による変化	ランドセルにつけるだけでなく、自宅から出かけるときにも持ち歩く。 うに指導を徹底するようになっている。				
今後の予定	今後も継続していく。				

3-(4)-7	継続	取組	回数・頻度	毎日			
取組名	防犯放送「ま	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
目的	不審者被害に						
概要	下校時刻を一	下校時刻を一斉に守らせるよう放送を流す。					
実施者	放送委員 主な対象				全校児童		
ISS による変化	安心・安全を意識した放送内容を工夫して流すようになってきている。						



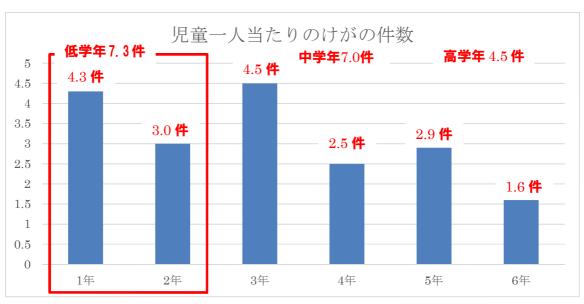
今後も継続していく。

指標―4 ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム

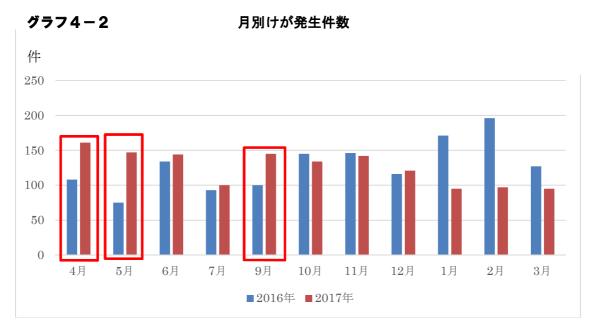
1 ハイリスクのグループの設定

対応	ハイリスクの	問題点	方向性	目標
为心	グループ	(プロブレム)	(チャレンジ)	(ゴール)
(1)	学校に慣れて	低学年のけがが多	・学校経験のある	・軽微なけがの減少
	いない低学年	٧٠ _°	高学年や保護者	・判断力の育成
	(集団)		の協力を得て、	・豊かな学校生活
			低学年のけがを	
			減らす。	
(2)	行事等による	運動会前やフェス	・月毎のけがの総	・防げるけがの減少
	生活リズムの	ティバル前、家庭	数を把握し分析	
	変化(状況・時	訪問などの日課が	する。	
	期)	変更する時期な	・環境整備をす	
		ど、生活リズムが	る。	
		変化する時期にけ	・安全行動を身に	
		がが多い。	つけさせる。	
(3)	自然災害対策	多様な自然災害が	・地震以外の避難	・対応力の育成
	(状況・環境)	発生する日本特有	訓練を実施す	
		の地形・地域の状	る。	
		況が問題点。		

グラフ4-1 児童一人あたりのけがの発生件数



出典:妻田小学校 2016 年保健室利用カード集計(4~3月)



出典:妻田小学校 2016 年 (4~3月) 2017 年 (4月~12月) 保健室利用カード集計 (2016 年度は、1月から細かくデータ集計を始めたので1・2・3月の総数が増えている。)

グラフ4-1から、低学年のけがの数が多いことがわかり、グラフ4-2から、2016年度と 2017年を比較すると、大幅に増加している月がわかった。以下に、プログラムを掲載する。

2 ハイリスクのグループを対象としたプログラム

(1) 学校に慣れていない低学年(集団)(4-(1)-3まで)

4-(1)-3	継続	取組回数・頻度	6月7月				
取組名	水泳ボランテ	イア					
	水泳中の事故	未然防止。		The state of the s			
4-(1 目的	継続	取組回数・頻度	年間				
取組名	ペア学年清掃 保護者に通知を	(6 ・ 1 年, 5 ・ 2 を出し、ボランティア	年) を募	生する			
概要目的		清掃中のけがを減乏する。					
実施者概要				教えること校児童年が安全に			
	這一種學生的	?。対象を全学年とし	てい	る。それ以前は低学年の保護者			
ISS による変化 実施者	対象だ年た。5 · 2年 主な対象 全校児童						
学後が参生	 						
今後の予定	今後も例年通り	り、行っていく。					

4-(1)-2	継続	取糺	且回数・頻度	1 学期	
取組名	ペア学年		15-00 m #L #T	•	Total Control of the
取組名	_		を 駆組回数 学規 を 駆起回数 学規 題の取り方	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	Diff A X
目的	練習年の 校生活を	学療法証。	どの取り力 について知り、うができるようにな しての自覚をも	する。	
概要	建関連は開き努め		を取めできる構	後作的を 有こ	とで、練習時のけが予
実施者概要	心となっ	て行う。		の手伝い。 朝	季校児童6年生が中 の活動時に読み聞か ションを行う。
実施者	児童 教	職員	主な対	象	全校児童
ISS による変化	該当学年	の担当が、	その年の児童に	応じた頻度で	行っている。
今後の予定	毎年実施	0			

(2) 生活リズムの変化によるけがの増加(状況・時期) (4-(2)-2まで)

ISS による変化	天候や児童の様子を見て即時判断し、無理をさせない体制になってい
	る。
今後の予定	今後も継続していく。

4-(2)-2	継続	取組	回数・頻度	特別日課の	Ħ	
取組名	特別日課のと	きの休る	み時間の過ごし	方		
目的	特別日課の日のけが防止。					
概要	特別日課のとき	きに、け	がが増えないよ	う、休み時間	間の過ごし方を学級指	
実施者	教職員		主な対	象	全校児童	
ISS による変化	朝の会で、1日の流れの説明を丁寧に学級指導する体制になっている。					
今後の予定	今後も継続していく。					

(3) 自然災害対策 (状況・環境) 日本の自然災害については、 $P.4 \sim P.5$ に掲載 (4-(3)-2まで)

4-(3)-1	継続	取績	組回数・頻度	年8回			
取組名	避難訓練				RING STEEL		
目的	・避難訓練の意義を理解させるとともに、安全 かつ迅速な避難の方法を知り、避難行動がで きるようにさせる。 ・避難経路を確認させる。						
概要	度から始めた。	事前指		回行って	: Jアラートは 2017年 いる。事後指導は、振		
実施者 教職員 主な対象 ニッ・ニー				全校児童 教職員 保護者 来校者			
ISSによる変化 本校が川に囲まれた地域にあることもあり、2017 年度より水害の訓練を実施している。							
今後の予定	今後も継続して	ていく。					

4-(3)-2	継続	取糸	且回数・頻度	年1回				
取組名	3校合同避難	訓練・引	別き渡し訓練					
目的	大規模地震発生を想定し、児童・生徒引き渡し 訓練を実施することにより、緊急事態発生時も 児童・生徒が混乱なく、安全に帰宅できるよう にする。							
概要	き、事前に一覧登録者に引き	能表にま 度しをす	年度初めに保護者 とめておく。連続 る。校庭 (雨天時 集め、教職員が3	格メール配は教室)で	2信後に徒 での引き渡	歩で来校し、 度し終了後は、		
実施者	教職員 保護者 主な対象				全校児童 教職員	〔 保護者		
ISS による変化	3 校の職員で反省を共有する体制になっている。							
今後の予定	今後も継続して	ていく。		-	-			

指標一5 入手可能な根拠に基づくプログラム

P.13 までの現状をもとに、下記の通り、身体的側面と心的側面について、現状分析(問題点)・方向性(課題)・目標に整理した。

			現状分析(問題点)			方向性(課題)	目標			
			不慮の要因	意図的要因		ノコロ エ (杯屋 /	口 1示			
身体的側面	校内	校舎内	 教室・体育館でのけがが多い 授業中のけがが多い 		→	課題1: けがを減らす(①② ③④) (1) 場所: 教室、体育館、	目標1: 校内の 防げるけ がの削減			
		校舎外	③ 校庭でのけが多い④ 授業中・休み時間のけがが多い	① 人から故意に受けるけががある		校庭 (2)時間: 授業中、休み時間 課題2: 言葉によるコミュニ	目標2: いじめ行為の削			
	 校 外	通学路	(5) 道路歩行時 横に広がる(6) 下校時に白 線からはみ 出す	<i>ช</i> ว จ	→	+	+	+		での1] 点の削減 目標3: 交通事故発生件 数「ゼロ」
		その他(学区)	⑦ 交関とい地様参数審する ・ 地域参数審する ・ の 災者にと ・ の の の の の の の の の の の の の の の の の の の		•	課題4: 防災・防犯 に対する 意識の向上(⑧⑨)	目標4: 危険回避能力(防 災・防犯)の向上			
	心的側面		① 言葉によるい 識をもっている ① 虐待や家庭内 が、児童相談所 ことがある) 						

※①~⑫の根拠については、P.13 に掲載済。

1 原因分析

(1) けが

グラフ5-1 2016 年保健室利用カード集計(4~3月)



出典: 妻田小学校 2016 年保健室利用カード集計 (4~3月)

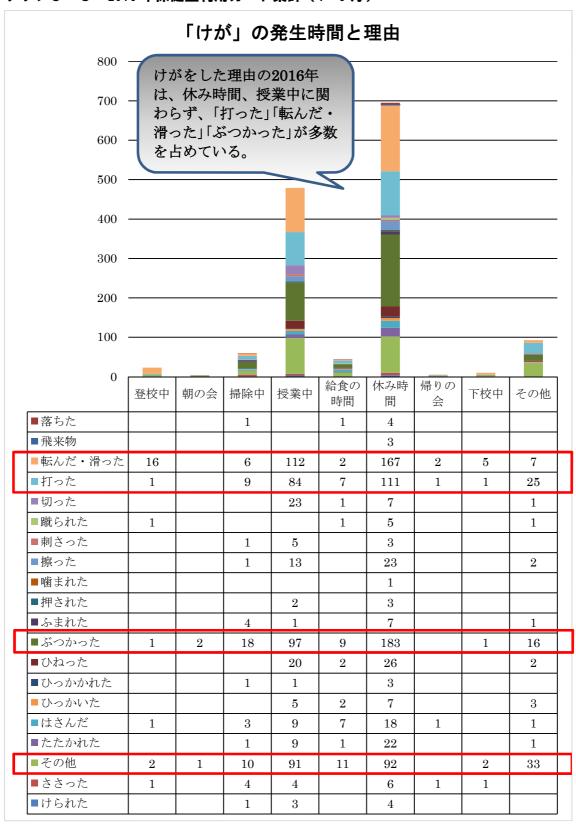
「けが」の発生時間と場所 600 500 2017年の授業中 400 は、体育館・校庭 2017年の休み時間 でのけがが、100 は、校庭のけがが圧 300 件を超えている。 倒的に多い。 200 100 0 休み時 帰りの 給食の 授業中 下校中 登校中 朝の会 掃除中 その他 時間 間 ■廊下 9 2 1 29 ■理科室 5 4 ■畑 1 ■道路 1 17 1 1 1 ■渡り 1 ■中庭 1 ■体育館 1 106 1 6 ■体育 1 ■多目的室 2 1 ■図書室 1 ■図工室 1 10 ■昇降口 1 ■児童会室 1 1 ■校庭 5 1 144 390 4 ■教室 33 7425 87 ■活動室 1 1 ■階段 3 3 17 2 1 ■家庭科室 8 ■音楽室 1 2 8 ■プール 3 ■トイレ ■その他 2 6 20 ■PC教室 4

グラフ5-2 2017 年保健室利用カード集計(4~12月)

※2017年は、より細かな場所データが必要になり保健室利用カードの変更をした。

出典: 妻田小学校 2017 年保健室利用カード集計(4~12月)

グラフ5-3 2016 年保健室利用カード集計(4~3月)



出典:妻田小学校 2016 年保健室利用カード集計(4~3月)

「けが」の発生時間と理由 けがをした理由の 2017年は、「遊んで 600 -いて」「運動してい 500 -て」が 100 件を超 400 -え、「相手や自分の 300 -不注意」も多い。 200 -100 -0 休み時 帰りの 給食の 登校中 朝の会 掃除中 授業中 下校中 その他 時間 間 ■遊んでいて 17 361 ■相手の不注意 12 30 7 33 3 ■自分の不注意 19 27 73 10 76 4 4 3 ■運動していて 188 17 ■ふざけていて 9 3 20 3 1 ■その他 2448 9 31 10 4 1 1 ■けんかして 20

グラフ5-4 2017 年保健室利用カード集計(4~12月)

出典:妻田小学校2017年保健室利用カード集計(4~12月)

グラフ5-5



出典:厚木市教育委員会 災害給付金データ

グラフ5-1とグラフ5-2、グラフ5-3とグラフ5-4は、それぞれ 2016年(4~3月)と 2017年(4~12月)とを比較して載せたものである。

2017年より、けがの理由を、「遊んでいて・相手の不注意・自分の不注意・運動して

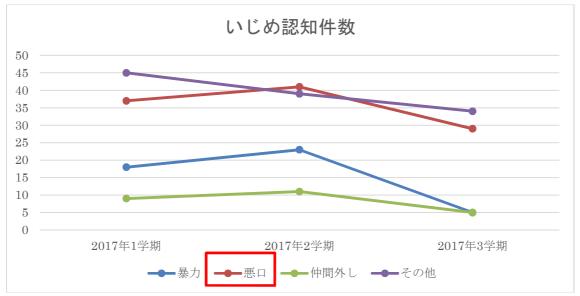
いて・ふざけていて・けんかして・その他」という分類に変更した。また、場所も「渡り・中庭・多目的室・図書室・児童会室・家庭科室」にし、より細かく見ていくこととした。1年前と比較をしても、けがが多いのは、時間帯は①休み時間、②授業中であり、場所は①校庭、②教室だった。理由は、2016年は①転んだ・滑った、②ぶつかったであり、2017年は①遊んでいて、②運動していて、となっている。

グラフ5-5から、重篤なけがは、厚木市と比べると少ない。

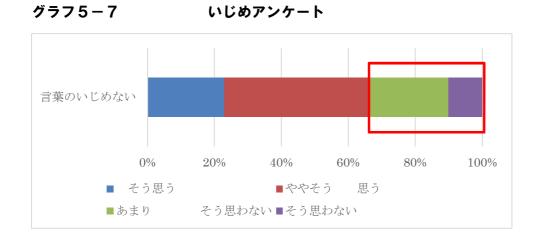
どのグラフも、「その他」の数が少ないとは言えない。場所や理由は「覚えていない」 というものが多いが、今後、さらに細かく分析していく必要がある。

(2) いじめ

グラフ5-6 いじめアンケート分類別件数

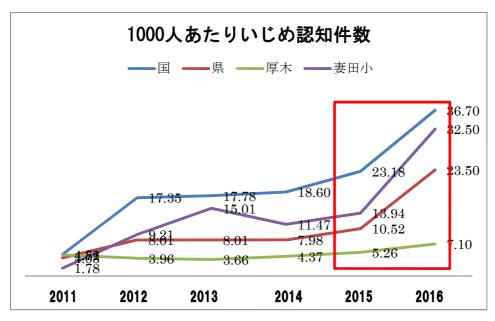


出典: 妻田小学校 2017 年いじめアンケート



出典: 妻田小学校 2017 年安心安全アンケート

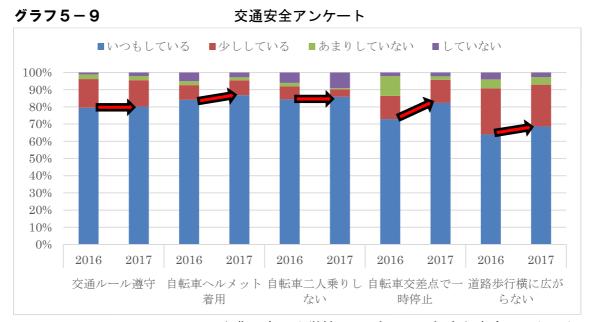
グラフ5-8



出典:厚木市教育委員会 いじめ認知件数

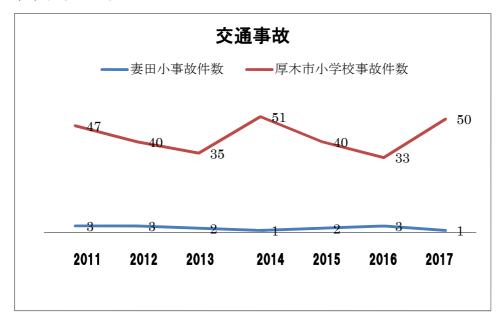
グラフ5-6・7・8から、本校のいじめ認知件数は増加している。これは、いじめの定義が文部科学省からの通達で変更されたことによる。本校は、悪口など言葉によるいじめの項目が高くなっていることから、言葉によるいじめに目を向ける必要がある。

(3) 交通安全



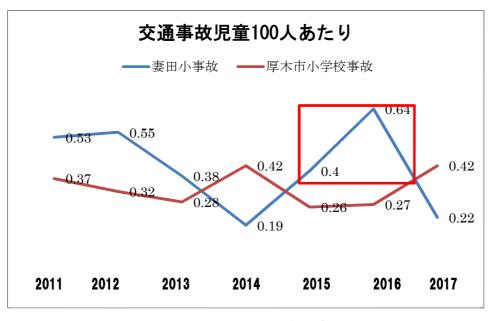
出典: 妻田小学校 2016年 2017年安心安全アンケート

グラフ5-10



出典:厚木市教育委員会 交通事故発生件数

グラフ5-11

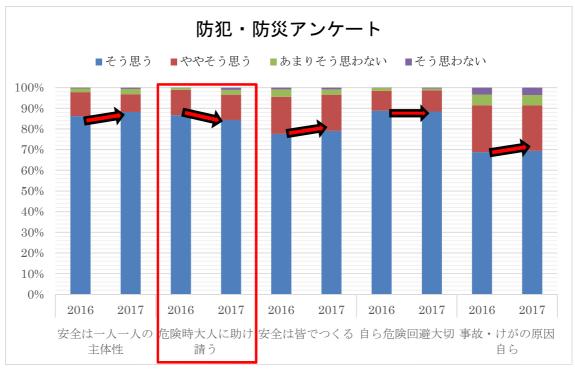


出典:厚木市教育委員会 交通事故児童 100 人あたり

グラフ5-9から、2016年と 2017年を比較すると、交通安全に対する意識は向上していることが分かる。グラフ5-10から、交通事故件数は少ないが、5-11からは、厚木市と比較すると、本校の交通事故の割合が、2016年は非常に高くなっていることが分かる。

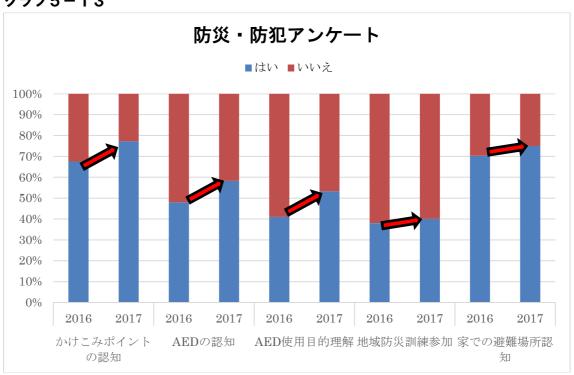
(4) 防災·防犯

グラフ5-12



出典: 妻田小学校 2016年 2017年安心安全アンケート

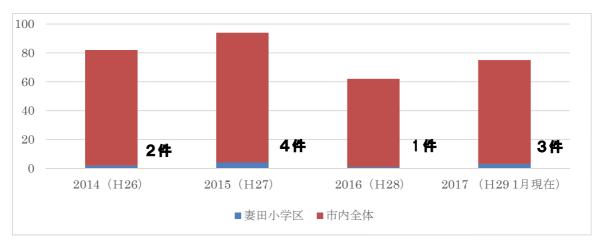
グラフ5-13



出典: 妻田小学校 2016年 2017年安心安全アンケート

グラフ5-14

不審者発生件数



出典:厚木市教育委員会 不審者発生件数

グラフ $5-12\cdot13$ から、2016年と2017年を比較すると、防犯・防災に対する意識は向上している項目がほとんどであるが、「危険時大人に助け請う」だけは下がっていることがわかった。また、グラフ5-14から、毎年数件であるが、本校学区において、不審者が発生していることがわかる。

2 重点取組の対策

前項の「原因分析」と合わせて P. 14 で整理した本校の問題点に基づいて、以下の 重点取組を設定することとした。

問題点	根拠・現状 (データ)	重点取組		
(1)		① 児童委員会等の取組		
けが	図5-1~5	② 教職員の取組(授業)		
1) //3		③ 教室環境(教室以外の場所も含む)		
(2)	図5-6~8	④ いじめ防止キャンペーン (児童会)		
いじめ	図5-6~6	⑤ Y-Pプログラム学級の居心地(学級活動)		
(3)		⑥ 交通安全教室		
交通安全	図5-9~11	⑦ 登校指導・下校指導(PTA・教職員・地域)		
父迪女王		⑧ PTA広報アンケート		
(4)		⑨ 避難訓練(地震・火災・水害・Jアラート等)		
防災・防犯	図5-12~14	指標4-(3)-1と同様		
MIN A MINT		⑩ 地域のパトロール		

(1) t t (5-(1)-10 t t t

① 児童委員会等の取組

5-(1)-1	新規	取	7組回数・頻度	毎月	
取組名	毎月のけがの	の発生が	場所の掲示		
目的	けが予防や安全に対する意識・関心の向上。				
概要					貼り、けがをしやすい
1,702	場所が目で見	しえるよ	こうにして安全への	関心を高めて	いる。
実施者	 児童 教職員	1	主な対	争	全校児童 教職員
大心石	九里 狄城兵	4	エは刈象		保護者 来校者
ISS による変化					
	廊下に掲示してあるけがマップにシールを貼っていくことによりけがを				
今後の予定	しやすい場所	が示さ	れ、児童・教職員	の安全に対す	る意識が高まってきて
	いるので、今	後も総	継続して掲示してい	く。	

5—(1)—2	継続	取組回数・頻度	歩行調べ:年2回	足跡つけ:不定期		
取組名	廊下歩行 跡つけ	調べ、右側歩行足				
目的	右側歩行止につな	を啓発し、事故防 げる。				
概要		校舎内の数箇所で、きちんと右側を歩いているかどうかを調べ、集計して 全クラスに結果を掲示。右側歩行の足跡が剥がれている箇所の修繕をす る。				
実施者	生活委員	会主な対象	全校児童 教職員 何	呆護者 来校者		
ISS による変化	廊下歩行調べの結果を、児童朝会で発表するようにした。					
今後の予定	今後も継	続していく。				

5—(1)—3	継続	取組回数	で頻度	雨の日		
取組名	雨の日の	雨の日の過ごし方				
目的	い、代表	雨の日の過ごし方について各クラスで話し合い、代表委員会で検討することによって、雨の日も安全に過ごすことができるようにする。				
概要	話し合い		その結果	各クラスで「雨の日 <i>0</i> 見を代表委員会にもち♪)過ごし方」について より、全校で取り組んで	
実施者	児童 教	汝職員		主な対象	全校児童	
ISS による変化	席者を中	中心に校内	をパトロ	ュールする児童が現れた	雨の日には代表委員会出 た。各委員会の委員長を ど、活動の広がりが見ら	

今後の予定	毎年実施予定。					
5—(1)—5	継続	取組回数・頻度	それぞれ2週間			
取組名	体力つく	0 週間		710		
目的	体力向上は	体力向上によるけが未然防止。				
概要	なわとび過	間間と、持久走週間で	体力づくりを推進	生 する。		
実施者	スポーツ룋	スポーツ委員会(児童) 主な対象 全校児童				
ISS による変化	なわとび週間は、隔年で内容を変えながら行っている。					
今後の予定	今後も継続	売していく。				

5—(1)—4	新規	取組回数・頻度	委員会時	Y		
取組名	校内安全	全マップ(校舎内	・校庭)			
目的	校内の危施。	校内の危険箇所によるけがを減らすために実 施。				
概要	地内の建	・校庭の危険箇所を を物等が書かれた[いのコメントを記え				
実施者	生活委員	員会(児童)	全校児童 教職員 保護者 来校者			
ISS による変化	_	·		•		
今後の予定	今後も組	継続していく。				

取組回数・頻度

5-(1)-6

継続

毎日

取組名	ゆっくり歩こう放送					
目的	休み時間の過ごし方の	休み時間の過ごし方の注意喚起。				
5—(1概要	教室内や廊下なりでか 新規 取組回数 放送内容を変更する。	・頻度 一年間を通び送を	入れる。天候によって			
取組名 実施者	危険回避力、危険予知	和力の学習 主な対象 然防止、危険箇所の確	Shith's shines was			
ISS I具的変化	一般心回避全を意識した	放送内容を工夫して流すよ				
今後の予定	学後活動続し学校近く	の道路の危険箇所について	確認したり、自分の歩			
概要	き方(自転車の乗り方 度を養う。)を見直したりして、安全	に生活しようとする態			
実施者	教職員	主な対象	全校児童			
ISS による変化	_					

会後の予定	2017 年から校内研究として全職員で学級活動の研究を行っているの				
5-(1)-9	新規 ^{継続して} 取組回数・頻度	委員会時			

② 教職員の取組 (授業)

③ 教室環境(教室以外の場所も含む)

5—(1)—8	新規	取組回数	・頻度	委員会時				
取組名	角にラバー	一取り付け、	いす机の	つささくれ補修				
目的	教室内のけが防止。							
概要	•	ラバーは、低学年の教室にある棚やロッカーなどの角に貼り付けた。さ さくれは、特別教室にある机いすにガムテープを貼って修繕した。						
実施者	生活委員会	(児童)	Ē	三な対象	全校児童	教職員		
ISS による変化	_							
今後の予定	ラバーなと	ご外れた場合	には再度	ラバーなど外れた場合には再度取り付ける。				

取組名	階段、廊下などにカーブミラー取り付け				
目的	階段・廊下など出会い	いがしらの接触を防ぐ。			
概要	委員会児童が話し合って提案書を作成し、教頭に提出し、購入が叶った。 取り付けは安全を考え業者に依頼した。				
実施者	生活委員会 業者	主な対象	全校児童 保護者	教職員 来校者	
ISS による変化	_				
今後の予定	ミラーを取り付けたこ	とで、けがが減ったか検証	Eする。		

5-(1)-10	新規	取組回数	・頻度	2017年1学期	
取組名		差、スプリ: 登差などのF			
目的	校庭の突起め。	起物に引った	密倒しないた		
概要	した(201	7 ラーの飛び 7 年度)。入 3 ものを他校 度)。			
実施者	教職員 業	教職員 業者 主な対象			全校児童 教職員 保護者 来校者
ISS による変化	_				
今後の予定		きについては)を作成する		入退場門につい	ては、2018 年は、本

(2) NUD (5-(2)-2 ± 0

- ④ いじめ防止キャンペーン (児童会)
- ⑤ Y-Pプログラム学級の居心地(学級活動)

5—(2)—1	継続	取組回数	女・頻度	10月~12月			
取組名	いじめ防止	キャンペーン					
	いじめ問題を	をクラスや学	交で考え、「N	いじめは悪いこと」			
目的	という意識を	という意識を高め、いじめのない学校生活を目指す。					
	・10月:ク [・]	ラスでできるい	へじめ防止活動	動について考え実践。			
	・11月:代表	表委員会で、	学校で取り組織	むことができるいじ	め防止活動について		
概要	考え実践。						
似女	・10月、11	・10月、11月の代表委員会で各クラスの意見を交流させ、全校で取り組む雰囲					
	気を作る。 $(1 \sim 3$ 年生の意見も吸い上げ、取り入れる)						
	・いじめ防止	上実行委員をつ	くり、約束つ	づくりや紙芝居づくり)を行う。		
実施者	児童会 教職	战員	主	Eな対象	全校児童		
ISS による変化	実行委員が、いじめ防止の約束をつくったり、紙芝居をつくったりするなど、						
このによる変化	様々な内容を	様々な内容を工夫して実施するようになってきている。					
今後の予定	毎年実施。						

5—(2)—2	継続	取組回数	• 頻度	年間 アン	ケートは年2回		
取組名	YPアンケート、プログラム (授業)				7.863.80.24(18.72) - 1.468		
	学級がす	学級がすべての児童にとって居心地のよいものであるか、					
目的	一人ひと	りの児童が良	自己肯定原	感をもててい	るかなどをア	- English	
	ンケート	して確認し、	指導に後	登立てる。		x d x 25 pt	
	 全校 	① 全校児童を対象に6月に第1回目のアンケートを実施。					
	2 ①を	受けて、学級	に合うプロ	コグラムを選	んで随時実施。		
概要	③ 11月	にはプログラ	ムを実施	した後の学級	の児童の様子を、	、再度同じアン	
	ケー	トを用いて再	確認。				
	4 13	のアンケート	結果を受り	けて、再度プ	ログラムを選んて	で実施。	
実施者	教職員			主な対	 象	全校児童	
	2015 年	までは1・2	学期のみの	り実施であっ	たが、2016 年よ	り毎学期実施。	
ISS による変化	アンケート後の分析やプログラムの選択は、学年で話し合って決める。一度					て決める。一度	
	ではなく、機会を見つけて繰り返しプログラムに取り組んでいる。						
今後の予定	学級がす	べての児童に	とって居	心地のよい場	であるように、 丼	旨導に役立てる。	

(3) 交通安全 (5-(3)-4まで)

⑥交通安全教室

5—(3)—1	継続	取組回数・頻度	年1回	3年と5年実施	
取組名	交通安	全教室(自転車走			
目的		全を意識付けるた 生と、乗り慣れて			
概要	自転車	師を招いて、交通 シミュレーター体 自転車の乗り方、	標識や、交通ル		
実施者	外部講	師 教職員	=	Eな対象	3・5年児童
ISS による変化	ISS以前から実施しているが、毎年内容を検討して行っている。				
今後の予定	今後も	継続していく。			

⑦登校指導・下校指導 (PTA・教職員・地域)

5—(3)—2	継続	取組回数	▪頻度	毎朝		
取組名	登校指導					
目的	登校時の記	安全確保。				
概要	学校付近に	こ立ち、登校	を見守る。)		
実施者	教職員 I	РТА	111	Eな対象	全校児童	
ISS による変化	体制・頻原	度は変化なし	0			
今後の予定	今後も継続	売していく。				

5—(3)—3 継続	取組回数 • 頻度	毎学期(年3回)
------------	-----------	----------

⑧ P T A 広報

5-(3)-4	継続	取組回数	・頻度	年1回			
取組名	PTA広幸	報「安心・多	安全意識の	の向上」			
目的	保護者対象に、安心・安全に 関するアンケートを実施し意 識を高める。				DAG-0011		
概要	毎年内容に 行。	tPTA役員	が決定し	実施。集計したもの)を広報誌に載せ発		
実施者	保護者			主な対象	保護者 全校児童 教職員		
ISS による変化	安心・安全に関する特集を取り扱うようになっている。						
今後の予定	今後も継続していく。						

取組名	下校指導
目的	児童の登下校が安全に行われるようにする。 緊急時における集団下校がスムーズに行えるよう にする。
	年3回の下校指導では、第1回目に登校班名簿の作成をする。その後は、
5—(4)—2	継続ごとに 取組回数 指 頻度 すう。年間重に復団、破交衣を、際りみ、危険、電が等
取組名	の確認をするようにしている。随時、各地区で、何か問題等もれば話し地域パトロール(愛のパトロール)
実施者	教職員
ISS による変化	たなどの青少年の升行や、元映画所への立ち 下であき方について、詳しく指導する体制に みれたにはよるよりませ
今後の予定	今後も継続していく。

- (4) 防災・防犯 (5-(4)-2まで)
- ⑨避難訓練

5-(4)-1 避難訓練 4-(3)-1と同様の内容のため省略

⑩地域のパトロール

-			
	年3回、「愛のパトロー	ル」と称して夕方から	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	夜間にかけて実施。睦合		
	防犯パトロールも兼ねて	ている。 地区の青少年健	
概要	全育成会委員、PTA、学		
	小、睦合東中)などが4		
	あり、清水小と睦合東中		
	実施。		
₽₩ ≠	青少年健全育成会委員	→ +> → 在	全校児童 保護者
実施者	PTA 学校職員	主な対象	地域
ISS による変化	地域パトロールが定着し	てきている。	
今後の予定	今後も継続していく。		

指標一6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラム

外傷等の発生頻度や原因などは学校が収集し、厚木市教育委員会と連携を図りながら 分析を行っている。

<記録するプログラムの項目分けと調査頻度・分析頻度>

項目	参考にするデータ	記録・調査頻度	分析頻度
	データA. 校内外傷発生データ	毎日	月1回
	データB. 校内外傷発生箇所データ	毎日	月1回
からだの	データD. 安心・安全に関するアンケート	年1回	年1回
「けが」	データF. 災害共済給付データ	随時	年1回
(学校内)	データH. 厚木市教育委員会事故発生報	随時	年1回
	告書データ		
	データK. 学校評価	年1回	年1回
	データC. 自転車用ヘルメットに関する	年2回	年1回
からだの	アンケート調査		
「けが」	データD. 安心・安全に関するアンケート	年1回	年1回
(学校外)	データG. 厚木市救急搬送データ	随時	年1回
	データK. 学校評価	年1回	年1回
	データD. 安心・安全に関するアンケート	年1回	年1回
	データE. いじめアンケート	年3回	年3回
こころの	データ I. 厚木市教育委員会不審者情報	随時	年1回
「けが」	データ		
(いじめ	データ J. 児童生徒の問題行動等児童指導上	年1回	年1回
等)	の諸問題に関する調査		
	データK. 学校評価	年1回	年1回
	データL. 防犯ブザー携帯調査	年2回	年1回

データA 校内外傷発生データ収集(毎日)

校内で発生したけがのデータを保健室において収集し、けがをした「時間」「場所」「原因」「種類」「部位」などの情報を記録している。

データB 校内外傷発生箇所データ収集(毎日)

校内に学校の平面図を掲示し、児童自らがけがをした箇所にシールを貼り付けている。

データC 自転車用ヘルメットに関するアンケート調査(年2回)

全児童を対象に、自転車の所有の有無、自転車用ヘルメットの所持の有無、及

び着用の有無について調査し、2017 年からは数値結果の推移をグラフ掲示することにより周知及び啓発を行っている。

データD 安心・安全に関するアンケート(年1回)

全児童を対象に、2017 年2月から安心・安全に関するアンケートを行っている。児童の意識や行動の変容を把握するとともに、様々な学習や指導が児童の意識向上に有効であるかについて検証を行っている。

データE いじめアンケート(年3回)

全児童を対象に、毎学期毎にいじめに関するアンケートを実施している。アンケート実施後に、該当児童には担任より聞き取りを行っており、暴力・悪口・仲間はずれ・その他に分類し、件数を把握している。

データト 災害共済給付データ(随時)

病院で治療が必要となる程度の「けが」の増減について分析を行っている。

データG 厚木市救急搬送データ(年1回)

市内の救急搬送データを厚木市消防年報から抽出及び分析を行っている。

データH 厚木市教育委員会事故発生報告書データ(随時)

交通事故や学校管理下の一般事故における重篤なけがについて学校が教育委員会に報告している。

データー 厚木市教育委員会不審者情報データ(随時)

不審者被害にあった児童や生徒が出た場合に、学校が教育委員会に報告し、周辺の学校に対して情報提供をしている。

データ J 児童生徒の問題行動等児童指導上の諸問題に関する調査

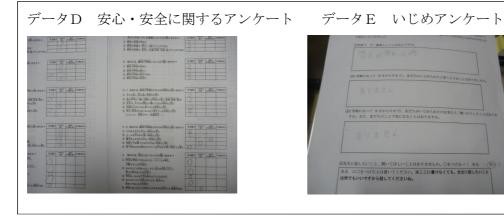
校内のいじめや暴力行為の認知件数をまとめ、厚木市教育委員会に報告し、厚木市や神奈川県、全国等の調査結果と比較して本校の傾向を分析している。

データド 学校評価(年1回)

保護者向け・児童向けにアンケートをとり、数値化し分析している。

データレ 防犯ブザー携帯調査(年2回)

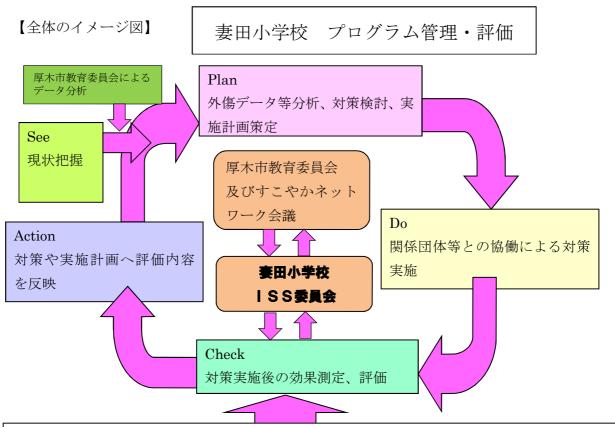
全児童を対象に、防犯ブザーの携帯、使用状況等を調査している。



指標一7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したこと による効果の評価

プログラムの進行管理は、本校のISS委員が中心となって行い、厚木市教育委員会 やすこやかネットワーク会議からの、評価指標に基づいて効果を確認している。(下図 参照)

なお、プログラムにおけるPDCAサイクルを展開していく中で、インターナショナルセーフスクール認証センター認証審査員に来校いただき、各取組や進行管理についてアドバイスをいただいている。



外部評価(インターナショナルセーフスクール認証センター認証審査員による指導)

2017年3月	JISC 白石先生、今井先生	児童・保護者・地域・教員向けワークショッ プ実施
2017年8月	JISC 白石先生、今井先生	進行状況の確認と指導・助言
2017年10月	ISS 認証センター グレメ・バーバー先生、白石先生	現地指導を実施
2018年1,3月	JISC 白石先生、今井先生	進行状況の確認と指導・助言

各問題点の短・中期成果と長期成果

(1) けがの予防

(1)	けかの予防			
取	3-(1)-1 校内外安全点検	4-(1)-1 ~	ア学年清掃	
組	3-(1)-2 毎月の「保健目標」の掲示	4-(1)-2 ~	ア学年活動	
	3-(1)-3 窓からの転落防止金具の設置	4-(1)-3 水	泳ボランティア	
	3-(1)-4 アクションカードを使った緊急時	運動会練習時の休憩の)取り方	
	対応研修	特別日課のときの休み	メ時間の過ごし方	
	3-(1)-5 学校安全計画の見直し			
	3-(1)-6 各教科安全マニュアルの作成掲示			
	3-(1)-7 体育の授業中の約束徹底			
	3-(1)-8 体育倉庫の整理整頓			
	5-(1)-1 毎月のけが発生場所の掲示	5-(1)-6 ゆっく	り歩こう放送	
	5-(1)-2 廊下歩行調べ、右側歩行足跡つけ	5-(1)-7 危険回過	避力、危険予知力の ^会	学習
	5-(1)-3 雨の日の過ごし方	5-(1)-8 角にラク	バー取り付け、いす	乳ささくれ補修
	5-(1)-4 校内安全マップ	5-(1)-9 階段、原	廊下などにカーブミ	ラー取り付け
	5-(1)-5 体力つくり週間	5ー(1)-10 スプリン	/ クラーの飛び出し、	入退場門の段差な
		どの対策	衰	
期間	成果指標		2016	2017
短	○けがに関する意識・行動			
中	・けがをする子が少ない学校だと思う。			
中期成果	(そう思う・ややそう思う %)		70	65
果	けがをしないように気をつけている。			
(意識	(いつも %)		73	77
識	○学校生活におけるルールを守ろうと	する意識・行		
行動	動			
0	・ルールを守る子が多い学校だと思う。		75	79
変化)	(そう思う・ややそう思う %)			
	【確認手段】 安心・安全に関するア	ンケート(対象	東 全校児童)	
長	○校内外傷発生件数の減少			
規成	・けが発生件数 (件)		1411	1381
果(・けが発生件数(児童1人あたり)(作	=)	2.99(全472人)	2.99(全 462 人)
現象	・通院の必要がある重篤なけがの発生	件数(件)	25	24
期成果(現象の変化)	○安全点検 改善率 (%)		_	_
化	【確認手段】 外傷データ(対象 全	交児童)、災害	給付金データ	

取組の結果

<児童の意識> 高まっている

<児童の行動> 変化はあまりないが、けがをした際、保健室で状況の説明が上手になって

きている

<職員の意識> 重篤なけがの情報を共有することで、けがをしそうな場所に目が向くようになっている

意識・行動に関しては、「けがをする子が少ない学校だと思う」という項目が5%下がったが、「けがをしないように気をつけている」、「ルールを守る子が多い学校だと思う」ともに4%向上した。これらから、ISSの取組が始まって、けがに対する意識は高まってきているが、行動の変化としては、十分ではない。

実際に、けがの発生件数は、2016 年が 1411 件、2017 年は 1381 件で、若干減少した。 2016 年度の1月以降、保健室外傷データを細かくとってきたということもあり、2017 年当初はけがの発生件数が一時増えたが、3 学期には件数が減少したため、総合計が減ったものと思われる。しかし、児童数で平均値を出すと、2016 年も 2017 年もほぼ変わらず、1年間で一人につき約3件けがをしていることになる。少しでも減らせるように、今後も取組を強化していく必要がある。

データをとるために、児童が用紙に記入することは4年ほど前から実施しているので定着している。また、2017年度から、けが発生場所にシールを貼るようになったが、それもこの1年で定着しつつある。シールを貼ることにより、けがの数や発生場所を「見える化」することで、防げるけがの減少につなげていきたい。

通院の必要がある重篤なけがについては、2016 年は1年間に25 件、2017 年は24 件だった。1ヶ月に2件ほど起きている割合となるので、重篤なけがが今以上に減らせるようにするためには、教職員間で情報共有することが大切である。現在も行っているが、どのようなときに、どんな行動によって重篤なけがにつながってしまったか、教職員の打ち合わせなどで共有することを徹底していきたい。

2016年、2017年とまだ実施していないが、2018年から安全点検後の修繕の必要な箇所について、どのように修繕が進んでいるかを、長期成果として見ていきたいと考えている。

(2) いじめ防止

取	3-(2)-1 小中合同ミーティング	5-(2)-	-1 いじめ防止キャ	・ンペーン
組	3-(2)-2 いじめアンケート	5-(2)-	-2 YPアンケート	、、アセスメント
71-1	3-(2)-3 スマートフォン・携帯電話安全教室			
	3-(2)-4 あいさつ運動			
期間	成果指標		2016	2017
短	○安心して生活できる人間関係作り			
中	・妻田小学校はたのしい。(そう思う %)		74	74
期成果	・子ども同士、仲がよい学校だと思う。			
果	(そう思う %)		5 3	58
意識	・妻田小学校は安心できる。(そう思う %)		62	64
識	○コミュニケーション能力			
行動	・言葉のいじめがない。 (そう思う %)	23	29	
\mathcal{O}	・友だちの嫌がることをしない。	61	65	
変化)	(そう思う %)			
	【確認手段】 安心・安全に関するアンケート	、(対象	· 全校児童)	_
長	○いじめ行為を減らす			
期成	・いじめ認知件数 (件)		15	17
果	・認知件数のうちのSNS関連認知件数 (件))	_	_
現	・悪口の件数・・・・・・・1 学期		37	37
象の	(=言葉に敏感になった件数) 2 学期		29	41
変化)	3 学期		29	29
.)	【確認手段】 文部科学省問題行動等調査、い	じめア	アンケート (対象	象全校児童)

取組の結果

<児童の意識> 高まっている

<児童の行動> 言葉のいじめがある

<職員の行動> いじめの認識が変わっており、きめ細やかに対応している

意識・行動に関しては、「子ども同士、仲がよい学校だと思う」や「妻田小学校は安心できる」は、5%、2%向上している。このことから、学校の雰囲気がよくなっていると言える。一方で、「言葉のいじめがない」の項目は、他の項目に比べて圧倒的に低い割合となっているので、コミュニケーション能力の育成に力を注がなければならない。

また、いじめの認知件数に関しては増加しているが、これは、文部科学省が「いじめ防止対策推進法」第 2 条で述べている通り、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた子どもの立場に立つこととしているためである。認知件数が増えたということは、きめ細やかに子どもたちの声に耳をかたむ

けているということにもなる。いじめ行為をそのままにせず、指導し経過観察することが重要になってくる。今後も、いじめアンケート(3-(2)-2)でしっかりと認知し、いじめ防止キャンペーン(5-(2)-1)で重点的に取り組んでいきたい。さらに、携帯電話スマートフォンの普及に伴い、SNS 関連のいじめも想定できる。2018 年からその件数も把握していきたい。

(3) 交通安全に対する意識向上

取	3-(3)-1 集団登校、集団下校	5-(3)-1	交通安全教室(自転車走行)		
組	3-(3)-2 見守り隊(セーフティベスト着用)	5-(3)-2	登校指導		
//	3-(3)-3 ヘルメット着用	5-(3)-3	下校指導		
	3-(3)-4 地域安全マップづくり	5-(3)-4	PTA広報「安心・	安全意識の向上」	
	3-(3)-5 かけこみポイントの配付				
	3-(3)-6 登校班連絡係会議、登校班長会議				
	3-(3)-7 チリリンつまだ				
期間	成果指標		2016	2017	
短	○歩行中の交通安全意識・行動(いつも				
中	・道路は、横に広がらないようにしている	0	64	69	
期成果	・交通ルールを守るようにしている。		80	80	
	○自転車に乗る際にヘルメットを着用しよ				
(意識	とする意識・行動				
•	・ヘルメット調査(着用率)1 回目(10 月)	(%)	90	91	
行動	2 回目(2 月)		なし	91	
\mathcal{O}	・自転車を乗るときには、ヘルメットをか	ぶる			
変化)	ようにしている。(いつも %)		84	87	
)	○自転車事故防止に関する意識の向上、行	動の			
	変化				
	・自転車に乗る時、二人乗りはしないよう	にし			
	ている。(いつも %)		84	86	
	・自転車に乗る時、交差点で一時停止をし	てい			
	る。(いつも %)		73	82	
	【確認手段】ヘルメット調査、安心・安全	に関する	アンケート(対象	象 全校	
	児童) 学校評価(対象 保護者・全校児	童)			
長	○通学路の交通事故をなくす			_	
期成	・登下校時の交通事故発生件数 (件)		0	0	
果	○自転車事故件数の減少				
· 現	・自転車事故発生件数 (件)	3	1		
象	○教職員から見たヒヤリハットの件数 ((件)	_	_	

【確認手段】 厚木市教育委員会事故発生報告書

取組の結果

<児童の意識> 高まっている

<児童の行動> 毎年数件自転車事故が起きている

<職員の行動> 今後、ヒヤリハットを数値化していく

意識・行動に関しては、「自転車に乗るときにはヘルメットをかぶるようにしている」3%、「二人乗りをしないようにしている」2%、「交差点では一時停止をしている」9%、「道路は横に広がらないようにしている」5%など、多くの項目で向上している。ISSの取組を始めて、交通安全に対する意識が高まっていることが分かる。

ヘルメットの着用率は、1%だけ向上しており 90%以上となっている。ヘルメットは、かぶっているだけでは事故は減らせない。万が一のときに自分の頭を守るものであるから、自転車等に乗るときは必ずかぶるとともに、正しくかぶらなければならないということを繰り返し指導していきたい。

今後、教職員から子どもたちの登下校中のヒヤリハットを数値化し、実際に子どもの意識と行動とのずれを把握していきたい。

実際に、交通事故発生件数は、毎年数件起きている(表1参照)。登下校時の事故はないが、放課後や休日の自転車での事故があるので、今後もヘルメット着用を呼びかけ、着用率向上をめざしていくとともに、学級指導などを充実し、意識を高めていきたい。

表 1	「妻田小	な 通事故の)具体的な内容·	一瞥表 :
4.	- TE III 11 1		/ 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	

2011 3件	2012 3件	2013 2件	2014 1件	2015 2件	2016 3件	2017 1件
5年女	4年男	3年男	2年男	2年男	5年男	2年男
自転車:自転車	自転車:乗用車	自転車:乗用車	自転車:乗用車	自転車:乗用車	自転車:側道の	自転車:なし
(道路横断中)	(交差点一時	(ヘルメット	(ヘルメット	(ヘルメット	壁面(ヘルメッ	(ヘルメット
	停止せず)	未、交差点飛び	着、横断歩道赤	着、下り坂路側	ト未、片手運	着、二人乗りの
		出し)	で横断)	帯はみ出し)	転)	後ろで立つ)。
5年女	3年女	6年男		2年男	3年男	
歩行:乗用車	自転車:乗用車	自転車:乗用車		自転車:乗用車	自転車:乗用車	
(バス下車後	(ヘルメット	(ヘルメット		(ヘルメット	(ヘルメット	
横断)	着、交差点)	未、交差点)		未)	着、2台並走)	

2年男	6年男		2年男	
自転車:乗用車	自転車:バス		自転車:タクシ	
(ヘルメット	(ヘルメット		ー (ヘルメット	
着、飛び出し)	未、交差点)		着、飛び出し)	

出典:厚木市教育委員会 交通事故発生件数(詳細)

(4) 防災・防犯に対する意識向上

H ,	3-(4)-1 災害から身を守るための体験	4-(3)-1 避難訓絲	#					
取組	3-(4)-2 用水路、川(厚木市遊泳禁止)の危険認識	4-(3)-2 3 校合同避難訓練・引き渡し訓練						
	3-(4)-3 窓・ドアの赤シール	5-(4)-1 避難訓練						
	3-(4)-4 不審者対応教職員研修会 5-(4)-2 地域パトロール (愛のパトロール)							
	3-(4)-5 5 校連絡網の活用							
	3-(4)-6 防犯ブザー調査 3-(4)-7 防犯放送「まとまって帰ろう」							
I be	- () () () () ()		0010	9017				
期間	成果指標		2016	2017				
短	○児童の自助力(自分の命は自分で守る力							
中	・地震や火事、洪水の時に、どう行動すれば	ばよいかを考						
期成果	えている。(いつも %)		50	62				
	・1 年間の避難訓練の回数(引渡訓練・ショ	ェイクアウト						
(意 識	含む) (回) 6 8							
識	・避難訓練後のアンケート結果「お・か・し・も・ち」							
行動	を守れた。 (守れた %)							
のカ	・PTA起震車・煙体験参加者数 (人) 172 185							
の変化	・あぶない場所には、一人で行かないようにしている。							
()	(いつも %) 76 76							
	○防犯ブザー携帯に関する意識・行動							
	・防犯ブザーの携帯率・・・1 回目(5 月)(9	84.8	85.1					
	2 回目(2 月)(%) 71.9							
	【確認手段】 安心・安全に関するアンケ	ート、防犯ブザ	一調査(対	象 全				
	校児童) 学校評価(対象 保護者 全校児童)							
長	○被災時における児童の心身の安全確保							
期成	・体や心のケアを要した子どもの数 (人) 0 0							
果	○不審者による被害の防止							
(現	・不審者被害件数(妻田小学区内)	件)	1	3				
象	・防犯ブザーの活用・・・・1 回目(5 月)(件)10							

	2 回目(2 月)(件)	2	3
【確認手段】	厚木市教育委員会事故発生報告書、厚木	市教育委員会	不審者情報

取組の結果

<児童の意識> 防災・防犯ともに高まっている

<児童の行動> 防犯ブザーの着用率が大幅に向上している

<職員の行動> 避難訓練の回数を増やし、想定を変えて行っている

「防災」の意識・行動に関しては、「地震や火事、洪水のときに、どう行動すればよいかを考えている」は、12%も向上した。これは、避難訓練(4-(3)-1、5-(4)-1)の回数を6回から8回に増やし、今までの地震や火事という想定だけでなく、洪水や飛来物に対する訓練も実施したからだと考えられる。

今後は、避難訓練後に実施している学級指導でのアンケートを数値化して分析することで、いざというときに自ら行動できる児童の育成をめざしたい。

また、被災時における体や心のケアを要した子どもは、2016、2017 年どちらもいない。 今後、被災児童の転入時は、しっかりケアできるようにしていくことが大切であると考え ている。

「防犯」の意識・行動に関しては、ブザーの着用率が、1回目、2回目いずれも向上している。特に、2017年の2回目は、約20%も向上し、日々の指導が生かされている。

しかし、不審者の発生件数は、2017年は増えてしまった。被害に遭わないことが一番であるが、万が一遭ってしまったときに身を守る術を、しっかりと学ばせていきたい。

指標一8 国内・国際的なネットワークへの継続的な参加

年・月・日	校内	市内県内	国内	国外	取 組
2016.10.12		•			校長がインターナショナルセーフスクール認証取得を目指す 意思を正式に表明
2016.11.17			•		豊島区仰高小・池袋本町小現地審査を視察(教頭、ISS 委員)
2016.11.18		•			厚木市立清水小学校第3回認証式を視察(校長、教頭、ISS 委員)
2016.11.18					JISC 講師来校(白石先生) 研修会実施
2016.12.1		•			3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかネットワーク会議」を開催
2016.12. 9			•		さいたま市立慈恩寺小学校現地審査を視察(教頭)
2016.12.19		*			自治会、公民館主催パトロールに参加 5-(4)-2
2017.1.16 ~1.17			•		松原市立松原第三中·布忍小·中央小事前指導視察(ISS 委員)
2017.1.20			•		さいたま市立慈恩寺小学校 ISS 認証式を視察(校長)
2017.2. 9			•		豊島区仰高小・池袋本町小 ISS 認証式を視察(ISS 委員)
2017.3.26		*			自治会、公民館主催パトロールに参加 5-(4)-2
2017.3.27	•				JISC 講師による第1回ワークショップを妻田小で実施 (地域・保護者・児童・教職員対象)
2017.5. 1		*			3校(睦合東中、清水小、妻田小、)合同引き渡し訓練実施 4-(3)-1
2017.6.16	•				JISC講師と妻田小学校インターナショナルセーフスクール関係の打ち合わせを実施((ISS 委員)
2017.6.19		•			3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかネットワーク会議」を開催
2017.7.15		*			自治会、公民館主催パトロールに参加 5-(4)-2
2017.7.28					食物アレルギー対応研修を実施

2017.8. 9	本校現地指導のための打ち合わせ(白石先生・今井先生)
2017.8.29	防犯・不審者対応研修(校内) 3-(4)-4
2017.10.31	ISS 現地指導(グレメ バーバー先生・白石先生)
2017.11.24	3校(睦合東中、清水小、妻田小)学区による「すこやかっツトワーク会議」を開催
2017.12.14	● 豊島区立池袋第一小現地審査を視察(ISS 委員)
2017.12.16	自治会、公民館主催パトロールに参加 5-(4)-2
2018. 1.18	ISS 認証員白石先生による認証支援
2018.2.6	● 豊島区立池袋第一小学校 ISS 認証式を視察(ISS 委員)
2018.3.29	ISS 認証員白石先生による認証支援

- ※ 上記以外に、校内 ISS 委員会を毎月行っている。
- ※ ★は、指標3~5で詳しい説明があるプログラム。

V 現在の問題点

	問題点	方向性
指標1	子どもたちと地域とのつながりがま	・地域の各種会議へ参加し、その内容を教
	だまだである(地域行事への参加率	職員や保護者等に発信し、子どもたちが
	があまり高くない)。	参加できることは周知していく。
指標3	・修繕の必要な箇所が校内にまだあ	・安全点検を徹底し、修繕箇所を直してい
	る。	くようにする。
指標4	・防げるけががまだ多い。	・落ち着いた学校生活を送れるよう、ルー
	・多様な自然災害に対する対応力向上	ルを徹底する。
	は、目に見えていない。	・様々な災害や様々な時間帯を想定した訓
		練を実施する。
		・避難訓練後の反省カードの結果などを活
		用していく。
指標5	・防犯・防災に関する意識が上がって	・学級指導を行い、日々意識付けできるよ
	はいるが、十分とは言えない。	うにする。
指標7	・各種データを集めているが、分析す	・データ集計を続け、分析するための時間
	る時間がなかなか確保できない。	を確保できるように調整する。
指標8	・国外とのネットワークがまだ確立さ	・2018 年アジア大会で、本校の様子を発信
	れていない。	する。
指標2、	指標6については、問題点は特にないので	、今後も継続する。

VI 長期展望

(1)校内の「けが」の減少

【問題点】 防げるけがの件数が、1年間で一人当たり約3件起きている。

【目標】 防げるけがの件数を減らす。

【具体的な方策】 校庭のけがに着目し、防ぐための手だてを考え、実践していく。

(2)いじめ行為の減少

【問題点】 言葉によるいじめの件数が多い。

【目標】 児童のコミュニケーション能力を向上させる。

【具体的な方策】 各学級で、スピーチや話し合いの機会を増やしていく。

(3)交通安全に対する意識の向上

【問題点】 交通事故が年に数件発生している(放課後、自転車に乗っていての

事

故)。

【目標】 交通事故ゼロをめざす。

【具体的な方策】 自転車事故防止に着目し、交通安全教室の充実とともに、家庭・地

域

と協力し、できることを実践していく。

(4)防災・防犯に対する意識の向上

【問題点】 自然災害はいつ、どんなことが起こるかわからない。 <防災>

不審者情報がある。<防犯>

【目標】 避難訓練の質を高める。 < 防災 >

防犯ブザー携帯率 100%をめざす。 <防犯>

【具体的な方策】 様々な想定で避難訓練を実施する。 <防災>

防犯ブザーの必要性を家庭に呼びかける。<防犯>

(5) その他

【問題点】 学校の組織の体制と、安全診断→実践→振り返りという一連の仕組

4

の確立が十分ではない。

【目標】 校務分掌の ISS 体制をふまえ、全職員で工夫しながら活動する。

【具体的な方策】 全職員と家庭・地域が情報の共有ができるよう、ISS 委員会(職員)

が中心となり、発信していく。